社会知性の開発をめざし
地域課題の解決に取り組む

石巻専修大学

石巻専修大学 地域貢献ハンドブック
2015（平成27）～2018（平成30）年度（前期）版

◎編集・発行／石巻専修大学
〒986-8580 宮城県石巻市南境新水戸1番地
◎TEL／0225-22-7711　◎FAX／0225-22-7710
◎URL／https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/
◎発行日／平成31年3月31日

※本ハンドブックは、2018 年度石巻専修大学共創研究センタープロジェクト事業の運営経費で制作しております

社会知性の開発をめざす
石巻専修大学

石巻専修大学
地域貢献ハンドブック

2015（平成27）～2018（平成30）年度（前期）版



石巻専修大学 地域貢献ハンドブック

CONTENTS／目次

◎ごあいさつ 01

組織や制度

ISU地域貢献 01 組織や制度

◎石巻専修大学における地域貢献への考え方・石巻専修大学の歩み 02
◎石巻専修大学の組織図 03
◎地域との連携協定等の締結 04
◎地域との定期的な協議等 05
◎地域貢献に関する他大学等との連携 06
◎地域や地域貢献に関連するカリキュラム等 07

活動報告（教育に関する貢献）

ISU地域貢献 02 子どもや学校等への貢献

◎教員の資質向上のための公開講座等 09
◎子どもたちへの学習支援 10
◎小・中学校との連携 11
◎高等学校との連携 12

ISU地域貢献 03 市民・社会人への貢献

◎みやぎ県民大学石巻専修大学開放講座 15
◎石巻専修大学開放講座in登米、科目等履修生・聴講生等 17
◎施設開放等の活動 18

ISU地域貢献 04 行政機関等への貢献

◎防災・減災対応、研究員の受け入れ等 21

ISU地域貢献 05 その他の貢献（地域経済・企業）

◎就職支援等 22

ISU地域貢献 06 その他の貢献（学生・教職員の活動）

◎石巻川開き祭りへの参加、学外から本学関係者への表彰等 23

活動報告（産業等に関する貢献）

ISU地域貢献 07 産学官連携

◎仕組み・体制 27
◎取り組みの実績 28

ISU地域貢献 08 地域関連研究等

◎仕組み・体制 30
◎IK地域研究 31
◎IS奨学研究 33
◎石巻専修大学研究助成（ISU研究助成） 35
◎受託研究 36
◎共創研究センタープロジェクト事業 37
◎私立大学研究ブランディング事業 41
◎復興共生プロジェクト 43
◎高大産連携プロジェクト 44

活動報告（国際化等に関する貢献）

ISU地域貢献 09 地域の国際化等への貢献

◎海外の大学との交流、各種支援制度等 47

資　料

◎公的機関等より委嘱された委員 49
◎【付録】石巻専修大学サクラMAP 52

第4号の刊行に寄せて



石巻専修大学
学長　尾池　守

石巻専修大学は、石巻圏域の皆様に支えられ、平成31年度で開学30周年を迎えます。「地域貢献ハンドブック」は、こうした地域との交流や連携の取り組みについて、広く知っていただくことを目的に、平成22年度に取りまとめたのが始まりでした。

今回刊行する第4号には、平成27年度から平成29年度までの活動に加えて、平成30年度の活動の一部も取り込んでいますが、単なる記録に留まらず読み物としても興味をもっていただけるような編成を心がけました。

また、平成28年度に本学が文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に選定されたこともあり、研究ブランドの発信も兼ね、地域関連研究をより広く紹介しています。さらには、石巻圏域における国際化の重要性を踏まえ、新たな項の追加なども行っています。

本学は、今後とも「開かれた大学」として、地域の持続的な発展に努めて参る所存としておりますが、本ハンドブックにより本学へのご理解を深めていただき、引き続きのご支援をお願い致します。

平成31年3月

石巻専修大学における地域貢献への考え方

石巻専修大学では、自己点検・評価活動と内部質保証の取り組みを進展させるため、2018（平成30）年11月に様々な分野の基本方針を整備しました。

この中には「社会連携・社会貢献に関する基本方針」も含まれており、本学が開学以来、開放センターを中心に取り組んできた地域活動の実績等も踏まえて以下の4点に集約し、今後とも堅持すべき方向性としています。

①本学は、教育研究活動の成果を広く社会に還元し、石巻圏域を中心とした協定自治体等との連携を図りながら地域社会の発展に寄与する。
②大学等の施設等の物的資源、教職員や学生等の人的資源、教育研究活動によって得られた知識や経験等の知的資源を活用して社会に貢献する。
③自治体等との連携活動、公開講座等を含む知の発信及び広報活動、国際交流活動等を行う。
④社会連携・社会貢献活動は、学生及び教職員の教育研究活動の向上につながるものとする。

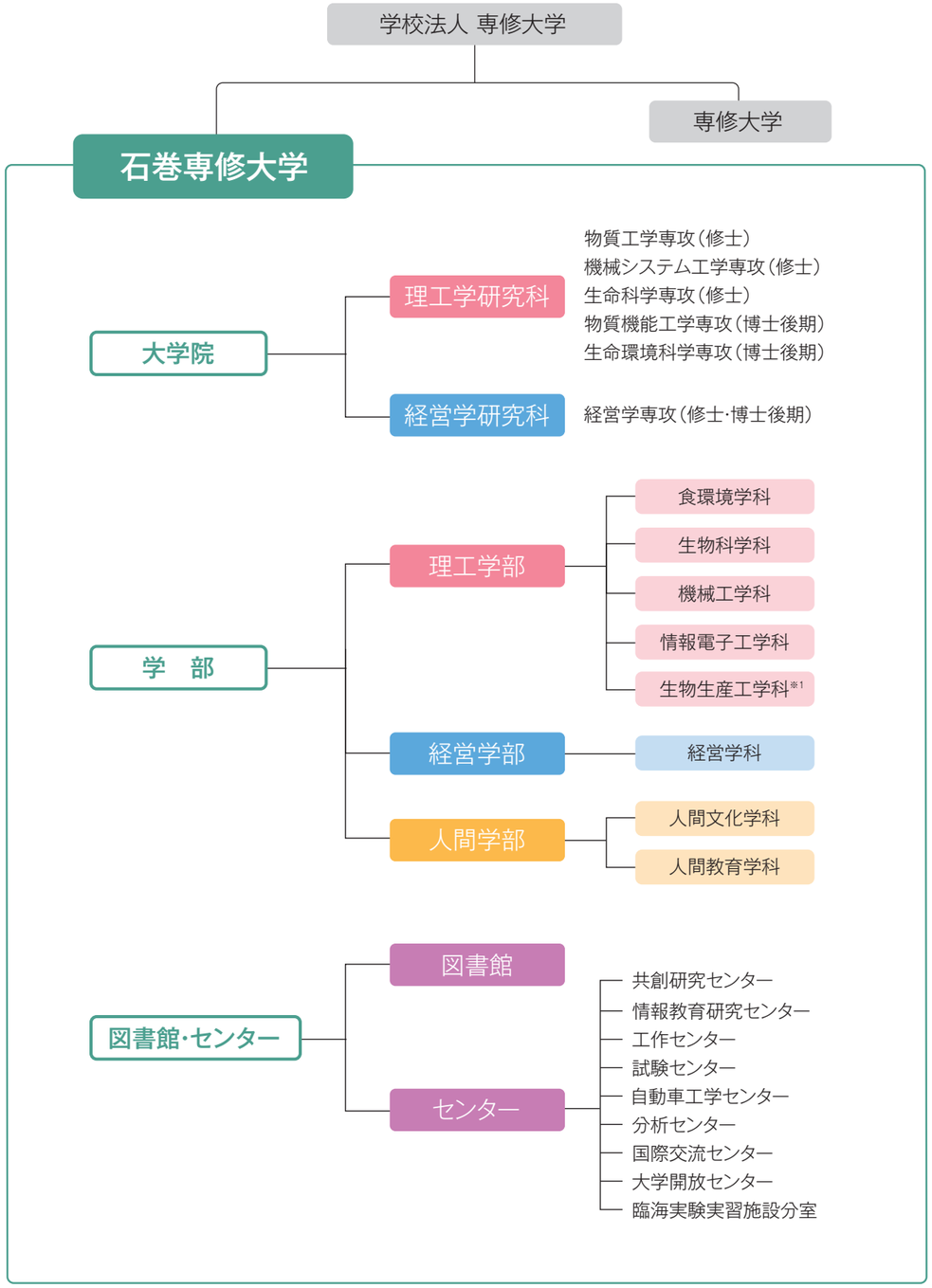
石巻専修大学の歩み

昭和期		
1988年（昭和63）	12月	石巻専修大学設置認可
平成期		
1989年（平成元年）	3月	石巻専修大学キャンパス落成
	4月	石巻専修大学開学
		大学開放センター設置
1991年（平成3）	7月	工作・試験センター竣工
1993年（平成5）	4月	大学院理工学研究科、経営学研究科修士課程設置
1995年（平成7）	3月	第1回大学院学位記授与式挙行（修士20名）
1995年（平成7）	4月	大学院理工学研究科博士後期課程設置
1997年（平成9）	4月	大学院経営学研究科博士後期課程設置
2000年（平成12）	10月	新キャンパス（5号館）落成
2006年（平成18）	10月	自動車工学センター竣工
2008年（平成20）	2月	石巻市と包括連携協定締結
		女川町と包括連携協定締結
		東松島市と包括連携協定締結
2009年（平成21）	3月	登米市と包括連携協定締結
	4月	共創研究センター設置
2013年（平成25）	4月	人間学部設置
2015年（平成27）	3月	石巻専修大学ユニバーシティハウス（学生寮）竣工
2018年（平成30）	4月	創立30年を迎える





石巻専修大学の組織図



※1　生物生産工学科は平成25年4月から学生募集を停止しているが、当該学科に学生が在学する間、経過措置により存続する。

地域との連携協定等の締結

石巻専修大学は、公私協力型の大学として当初から地域貢献を掲げスタートしましたが、より広範で確かな連携を進めていくため、2008（平成20）年2月に改めて石巻圏域の3自治体と包括協定を締結しました。さらに、同年3月にはかねてより交流が深かった隣接の登米市とも同様の協定書を交わしました。

本学では、本学の教育的資源を活かすことによって、地域振興や人材育成などにつながる連携であれば、積極的に応援していくこととしています。

■公的機関

協　定	相手先	締結年度	概　要
石巻市と包括連携協定	石巻市	2008（平成20）	両者が包括的な連携のもと相互に協力し、地域社会の発展と人材育成および学術の振興に寄与する
女川町と包括連携協定	女川町	2008（平成20）	両者が包括的な連携のもと相互に協力し、地域社会の発展と人材育成および学術の振興に寄与する
東松島市と包括連携協定	東松島市	2008（平成20）	両者が包括的な連携のもと相互に協力し、地域社会の発展と人材育成および学術の振興に寄与する
登米市と包括連携協定	登米市	2009（平成21）	両者が相互の密接な連携協力により、子孫に引き継ぐ地域資産に配慮し、地域社会の発展と人材育成および学術の振興に寄与する
大規模災害時における連携に関する協定	石巻市	2012（平成24）	石巻市内に地震、風水害等による大規模な災害が発生し、または発生することが予想される場合において、石巻市が災害対策を行う際に、本学の所有する施設の提供及び災害時のボランティア活動についての支援等を受けることができる
宮城県教育委員会と包括連携協力に関する協定	宮城県教育委員会	2012（平成24）	両者が連携のもと相互に協力し、学校教育・学術の振興及び地域社会の発展と人材の育成に寄与する
みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成に関する協定	宮城県と宮城県内11大学等 仙台市と宮城県内11大学等	2015（平成27）	宮城県と仙台市と本学をはじめとする「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の事業協働機関（大学・高専等）が相互の密接な連携と協力により、大学等の「知」を活かし、地域の課題に適切に対応し、大学等と宮城県内の企業等が協働して付加価値を高め合う取り組みを通じて、大学等の学生に県内の企業等の様々な優位性や魅力の気づきを与え、卒業生の県内への定着に寄与する
高等学校商業教育技術研修会の共同開催に係る覚書	宮城県総合教育センター	2017（平成29）	高等学校商業教育技術研修会について、両者が教育活動に関する基礎的かつ専門的な知識と技能を備えた学生及び教員を育成することを目的に、相互に連携協力して実施する

■その他

協　定	相手先	締結年度	概　要
石巻信用金庫と連携協力協定	石巻信用金庫	2006（平成18）	両者が相互の連携と協力により、地域の活性化と産業の振興に寄与する事業（ISプロジェクト）を遂行する
東北未来創造イニシアティブ合意書	・石巻信用金庫 ・東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター ・社団法人東北ニュービジネス協議会	2012（平成24）	本学を含む四者が主催となり企画運営する、東北の被災地における人づくり、街づくり、事業創造、産業創造を目的とする「東北未来創造イニシアティブ」の理念に共感し、パートナーとして共にこれを推進する
東日本大震災生活研究プロジェクトに関する協定	一般社団法人 日本家政学会	2012（平成24）	東日本大震災の石巻市を中心とする被災者への生活再建とコミュニティの再生を目指し、「東日本大震災生活研究プロジェクト」を遂行する
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との協定	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	2014（平成26）	2020年に開催する東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、両者がそれぞれの資源を活用し、オリンピック教育の推進や大会機運の醸成等、大会に向けた取り組みを進めるため、相互に連携・協力体制を構築する
株式会社楽天野球団の連携協力に関する協定	株式会社 楽天野球団	2016（平成28）	両者が密接に連携協力することにより、双方の人的・物的・知的資源の活発な交流と活用を図り、もって地域活性化への貢献とスポーツ振興に寄与するとともに、相互により一層の充実と発展を遂げる

地域との定期的な協議等

石巻専修大学では、地域からの要望や意見等を教育研究等に活かしたり、逆に大学から地域へお願いしたりする仕組みとして、関係機関等との定期的な意見交換の場をいくつか設けています。開学時より継続しているものもあり、全国的にも貴重な取り組み事例となっています。

■石巻専修大学と圏域首長・議長懇談会

本懇談会は、(公財) 石巻地域高等教育事業団の主催で石巻圏域の3自治体の市長·町長·議会議長が一堂に会し、相互の連携・協力について話し合うため、毎年開催されている会議です。2018 (平成30) 年度も1月28日、亀山石巻市長、尾池学長ら関係者40人が出席し、地域活性化に向けた連携や人材確保を巡り意見が交わされました。



■石巻地域連携協力推進会議

本会議は、2008 (平成20) 年2月に締結した石巻市との包括協定に基づき、課題解決等について話し合う定例会議です。2018 (平成30) 年度は12月26日、石巻市からは菅原副市長、関係所属部長等22名、本学からは開放センター長等17名が出席し、地域課題の解消に繋がるオープンデータの利活用等について協議しました。



■石巻地域産業人材育成プラットホーム会議

本会議は、県東部地方振興事務所の主催事業で、管内市町、商工団体、石巻信用金庫、本学、石巻公共職業安定所、県出先機関などの代表者で構成しています。

石巻地方の産学官が、次世代を担う人材の育成、地元雇用・定着のため、情報交換や連携を行っています。就業体験受け入れ態勢や企業見学情報などを掲載した企業ガイドブックの作成、活用などに取り組んでいます。



■石巻圏域保育·教育人材育成推進協議会

本協議会は、石巻地域の保育·教育·文化の人材育成を推進するため、本学を含む関係機関・団体等で2014 (平成26) 年2月に発足しました。

定期的に東日本大震災後の子どもたちの教育や環境づくりについて、広く意見交換を行っています。



■教育人材育成拠点校連携推進連絡会

本連絡会は、「石巻圏域保育·教育人材育成推進協議会」の下で、特に関係の深い保育所・幼稚園·小学校·中学校·高等学校·支援学校を拠点校として教育·連携を図っています。

2013 (平成25) 年9月から事業を開始。現在6つの拠点校があります。

地域貢献に関する他大学等との連携

社会のグローバル化や高齢化等が進む中、将来を担う多様な人材育成のため、複数の大学がそれぞれで持つ優位な教育資源を相互に活用する仕組みが重要となっています。石巻圏域においても例外ではなく、石巻専修大学では他大学等と共同し魅力ある教育研究・人材育成を実現する大学間連携に取り組んでいます。

■学都仙台コンソーシアム

大学等の高等教育機関と市民・企業・行政が互恵的な関係を結び、ともに高め合い、相互に発展の機会を創造していく「知が連携する学都仙台」を目指す、本学を含む28の大学・自治体等が参加する事業体です。仙台学長会議での検討を経て、2006 (平成18) 年9月に設立され、「学都仙台単位互換ネットワーク」、「学都仙台サテライトキャンパス」、「復興大学」などの事業が行われています。本学は設立時より加盟しており、人数は少ないものの単位互換制度を活用して他大学の授業を積極的に履修する学生も見られます。



■地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+) みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成事業

本事業は、宮城県にある12の高等教育機関がそれぞれ有している教育プログラムを相互に展開し、より実効性の高い地域人材の連携型の育成プログラムの構築を目指すものです。

本学も参加校として事業に協力しており、2016 (平成28) 年7月には、COC+推進コーディネーターを講師に迎え、「COC+事業とディープ・アクティブラーニング」のテーマで教員セミナーを開催しました。

文部科学省
地(知)の拠点

■専修大学への国内留学

2017 (平成29) 年4月より、本学の経営学部3年次生が専修大学の経営学部へ半年間 (4~8月) 国内留学する制度が開始されました。本制度により、専修大学で修得した単位は本学の単位として認定されます。学生にとっては、単に専修大学の専門科目が履修できるだけでなく、ゼミナール等を通して新たな人間関係を構築する絶好の機会となっています。

2017 (平成29) 年度3名、2018 (平成30) 年度5名が、本制度を利用しました。



専修大学2号館前で決意を固める本学の経営学部生

地域や地域貢献に関するカリキュラム等

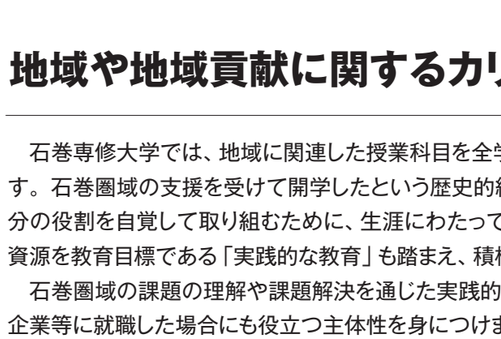
石巻専修大学では、地域に関連した授業科目を全学共通、さらには各学部・学科においても複数設定しています。石巻圏域の支援を受けて開学したという歴史的経緯もありますが、輩出すべき人物像「社会の諸問題に、自分の役割を自覚して取り組むために、生涯にわたって学び続けることができる人」を実現するため、地域や地域資源を教育目標である「実践的な教育」も踏まえ、積極的に教材として活用しています。

石巻圏域の課題の理解や課題解決を通じた実践的な学びによって、卒業生が出身地に戻った場合はもちろん、企業等に就職した場合にも役立つ主体性を身につけます。以下の授業科目は、主なものを一部例示したものです。

■「いしのまき学」（全学・必履・1前）

「いしのまき学」は、石巻を題材として地方都市が共通に抱える課題を考察する科目です。入学直後の全１年生に地域の魅力等を伝え、在学中における学び、生活の場として積極的に活用するように促す目的で、2017（平成29）年度より開講しました。

石巻の歴史、産業、川開き祭りなどをテーマに、各界の代表者をゲストスピーカーに招き、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法も取り入れながら行われます。川開き祭りは、本授業科目で取上げていることや、学事で地域貢献日に設定していることなどもあり、多くの学生が参加しています。



「地域企業の経営戦略」について講義



グループワーク後のプレゼンテーション

■「復興ボランティア学」（全学・選または必・1前）

石巻市は、東日本大震災で最も大きな被害を受けました。本学には全国から多くのボランティアが集り、復興拠点となりました。「復興ボランティア学」は、こうしたボランティアの実態を学び、実績・足跡を記録し、受講生も復興のために行動することを目的に、2013（平成25）年度より開講されました。最近ではテーマが広がり、地域再生や事業再生などの講師も招いています。授業は、一般市民にも開放しています。



「誰でも１回だけでも聴講OK!」



毎回満席

■「地域と政策」（全学・選必または選・1後）

「地域と政策」は、包括協定を締結している本学ならではの科目です。石巻市の各部門の現役職員を講師に招き、政策主体としての自治体という観点から、制度、政策など自治体が直面する課題について考えます。また、コミュニティ論に立脚した自治と地域社会の在り方についても取り上げ、地域コミュニティの変遷とコミュニティ理論について概観したうえで、まちづくりに当たって必要とされる市民と自治体の連携についても検討します。



亀山市長による講義「超高齢化・人口減少社会における持続可能な都市・地域の形成」

■「海洋生物学・動物学・植物学実習」（理工生物・必・3後）

生物科学科では、海洋生物学、動物学、植物学の３コースに分かれ、宮城県の石巻周辺の海岸域から奥羽山脈周辺までをフィールドに、生物採集および観察、環境観測と評価の基本を経験します。採取後、生物計測等も発展学習として行い、生物に対する総合理解を深めます。自然豊かな地域の自然環境があればこそ可能な授業科目と言えます。



石巻市渡波海岸での泥の中の生物採集



本学周辺の農業用水路等から水を採取

必履：必履科目　必：必修科目　選必：選択必修科目　選：選択科目



蔵王で亜高山帯～高山帯の特徴的な植生を学ぶ

■「地域経営論」（経営・選・2前）

地方経済は、人口減少、少子高齢化、産業の空洞化など厳しい状況におかれています。地域経営論では、地域に地域再生・地域活性化、地域づくりといった企業経営的手法の視点を導入し考察します。

具体的には、地域が抱える構造的課題を客観的に分析するとともに、地域経営に必要な理論を学んだ上で、地域で活動する各主体の連携のあり方や具体的な事例を取り上げ、解説し、地域資源の活用や地域振興策を展開する上での課題と方向性を考えます。



課題解決に向けた討論

■「復興の社会学」（人間・必・2前）

「復興の社会学」は、2013（平成25）年度に地域の要請を踏まえ開設した人間学部が、学部共通の科目として開講した科目です。災害と被害の発生に関する社会的背景と人間行動を分析するとともに、復興の理念とその実現に関する社会的諸問題を検討します。具体的には、過去の災害や東日本大震災を事例に、地域の復興を自ら考察することなどにより、主体的に実行する能力を育みます。



子どもや学校等への貢献

石巻専修大学は、開学とともに開放センターを設置し、石巻圏域唯一の高等教育機関としての自覚の下、広く子どもから社会人まで大学の教育資源を活かした各種の取り組みを実施し、地域の生涯学習の拠点としての責務を果たしてきました。2013（平成25）年4月の人間学部の開設を機に、今まで以上に保育・教育現場の指導者向けの資質向上等のための取り組みも積極的に展開しています。

■「教員の資質向上のための公開講座」開催

本学は、（公財）石巻地域高等教育事業団及び石巻地区高等学校長協会と様々な連携事業に取り組んでいますが、教員の資質向上を目的とした講座もその一つです。本講座は、宮城県教育委員会との協定に基づき「10年研」の指定研修にも位置づけられました。2016（平成28）年度より教員免許状更新講習がスタートしたこともあり、3年間（平成26～28年度）の実施となりました。



人間学部教授による講座

■教員の資質向上のための研究会・研修会・出前講座等を実施

教員の資質向上に関連して、次のような協力も行っています。

◎石巻教育研究会理科研究会一斉授業研究会

2015（平成27）年11月、石巻教育研究会理科研究会からの要請を受けて、一斉授業研究会が本学で行われました。石巻圏域小・中学校から集まった75名の教諭を対象に、理工学部及び人間学部の理学系教員が身近な素材を使っての実験等を行いました。



身近な素材を活用した観察、実験を紹介

◎石巻地区小学校長会会員に対する講演

2015（平成27）年10月、石巻地区小学校長会からの要請を受けて、会員向けに「地域や社会に貢献できる人材育成について」のテーマで、人間学部の木村民男教授が講演しました。

■教員免許状更新講習開催

2013（平成25）年度に人間学部人間教育学科が開設されたこともあり、地域の教育人材育成に貢献するため、2016（平成28）年度より教員免許状更新講習を開催しています。

講習領域は必修と選択必修に限定していますが、石巻圏域を中心に県内の保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校の先生から多数の受講申し込みがあり、2018（平成30）年度の講習では急きょ定員を増やし対応したほどでした。



「学校をめぐる近年の状況の変化と組織的対応の必要性」講義

■子どもたちへの学習支援

◎青少年のための科学の祭典 2015 石巻大会

（主催：「青少年のための科学の祭典」石巻大会実行委員会／公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館）

2015（平成27）年8月、「青少年のための科学の祭典2015 石巻大会」が開催され、子どもたちを中心に延べ約1,100人が来場しました。宮城県内の小中高校、大学、研究機関等が実験・工作38タイトルを出展しました。本学からは「ロボットのプログラムを組んで迷路をクリアしよう」（情報電子工学科）や「ヒゲカビってどんなカビ?」（宮嵜厚研究室）等の6実験が参加しました。

「青少年のための科学の祭典」の石巻大会は、青少年に科学の実験を通して楽しさを体験し興味を深めてもらう目的で、2001（平成13）年度から石巻大会実行委員会と公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館が主催して始まりました。本学は会場提供にとどまらず、出展、スタッフの面等から幅広く協力してきましたが、2015石巻大会をもって終了することになりました。

◎ひらいてみよう! 知の玉手箱

「青少年のための科学の祭典」の石巻大会は2015（平成27）年度をもって終了しましたが、本学では科学の楽しさに触れ興味を深めてもらう取り組みは重要と考え、2016（平成28）年度より「ひらいてみよう!知の玉手箱」を大学祭に合わせて実施しています。

子どもたちだけでなく、地域の方々にも大学の研究活動を知ってもらうことや、科学技術への理解を深めてもらうことも含めて、教員・学生が工夫を凝らした実験や工作の紹介を行っています。





ロボットプログラミング



牛乳からプラスチックをつくる



慣性力を体験



Pepper君を体験

◎ふるさと子どもカレッジ

（主催：石巻市教育委員会）

「ふるさと子どもカレッジ」は石巻市の社会教育事業の一つで、石巻の自然・文化等の素材を資源として、経済的視点で体験し、地域の自然や伝統文化などの学習機会を創出し、ふるさとを愛し誇りに思う心を育てようとする取り組みで、本学は2014（平成26）年度から協力しています。

2015（平成27）年度
人間学部鈴木均教授「透明人間になる方法」のテーマで講演。

2016（平成28）年度
理工学部高橋智准教授「身近な材料で学ぶモノの強さ」のテーマでパスタ強度試験やパスタタワー製作の体験学習。

2017（平成29）年度
理工学部坂田隆教授「ワニはドキドキするか」のテーマで講演。



パスタの強度試験



ワニはドキドキするか

■小・中学校との連携

将来を担う子ども達が、早い段階で大学の高度な教育研究に触れることは、知的好奇心の刺激にもなり、学習等への興味や関心の醸成につながるものと思われます。そこまで行かなくても、本学を身近に感じてもらうだけでも意義のあるものと考えています。このようなことから、本学では教育委員会等の関係機関とも連携しながら、子ども向けの取り組みを重視して行っています。また、2013（平成25）年４月の人間学部の開設を機に、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校まで石巻圏域を中心に拠点校や協力校の覚書を交わし、保育・教育実習なども含めて連携が強化されています。

◎職場体験学習

小・中学校の職場体験学習は、児童・生徒が職場の体験や講話を聞くことによって、働くことの意義や喜びについて学ぶとともに、自分の進路についてしっかり考える機会を得ることを目的に行われています。本学では、こうした職場体験学習に協力しており、中でも図書館の仕事についての体験希望が多く寄せられます。生徒達には、職員から大学図書館の業務について説明があり、その後は実際に「働く」体験もします。これまで、石巻市立河北中学校、蛇田中学校、住吉中学校等の生徒が参加しました。



図書を整理



貸出、返却

◎特別教室

▶2015（平成27）年、2016（平成28）年、石巻市立山下小学校５年生を対象に、理工学部の山本憲一教授が『自動車の将来と電気自動車の構造』をテーマに特別授業を行いました。社会科授業の一環として、自動車の将来を学ぶとともに、電気自動車模型の製作を通して構造についての理解を深める目的で、自動車技術会行事と本学の併催で実施しました。



ソーラーパネルつきの自動車模型を製作

▶2018（平成30）年、石巻市立稲井小学校５年生を対象にビブリオバトルワークショップを開催しました。NPO法人テイラー・アンダーソン記念基金の支援を受け、絵本専門士の依田晴美氏発案のもと実施したもので、本学人間学部の学生が手本としてデモンストレーションした後、小学生がそれぞれに工夫しながらお勧めの本を紹介しました。



学生によるデモンストレーションを真剣に聴く

◎校外学習受け入れ

児童が学区内を探検する社会科の校外学習で、2015（平成27）年、石巻市立稲井小学校3年生が来学しました。理工学部実験棟などを見学した後、図書館では寄贈されたテイラー文庫の読み聞かせ会が行われました。



図書館を見学

■高等学校との連携

本学は開学以来、（公財）石巻地域高等教育事業団が主催する形で石巻圏域の高等学校との定期的な意見交換（石巻圏域高等学校と石巻専修大学の懇談会）を行うとともに、進路選択や学習意欲の向上に役立ててもらうため、出前授業、大学見学、施設開放等にも積極的に協力してきました。

2006（平成18）年９月以降、大学の授業聴講による単位認定等を内容とする高大接続に係る協定を順次締結するなどして、より進んだ連携を展開しています。また、最近では課題解決型学習の重要性もあり、産業界を巻き込んだ複合的な連携（高大産プロジェクト）の取り組みも活発になっています。

◎石巻圏域高等学校との懇談会 開催

（公財）石巻地域高等教育事業団が主催する会議で、本学、事業団、石巻地区高等学校長協会の三者連携を強化し、石巻地方の教育力向上、発展に尽力することを目的に毎年２回開催しています。



懇談会

◎石巻圏域高等学校向け大学見学会 開催

石巻圏域高等学校に在籍する生徒１、２年生を対象とした「大学見学会」を、（公財）石巻地域高等教育事業団、石巻地区高等学校長協会および本学の共催で、2014（平成26）年から３年連続で開催し、毎年教員、保護者を含め200名を超える参加者が本学に集いました。

「大学とは何か、進路選択のきっかけづくり」をつかんでもらうために、大学施設の見学、圏域高等学校出身の社会人による講話、模擬授業（学部・学科での学び）などを行いました。

※個別の高等学校向けには、随時見学会を実施しています。



模擬授業



キャンパスを見学

◎高等学校商業教育技術研修会 開催

2018（平成30）年、本学と宮城県教育委員会との共催で２日間の研修会を実施しました。

本学経営学部教員が講師をつとめ、県内の高等学校，特別支援学校の教員10名と本学の学生が参加し、最先端のICT技術や理論，プログラミング教育の在り方等について講義、演習を行いました。



模擬授業



学生を生徒に見立てて実践

◎学校評議員 派遣

学校評議員とは、学校や地域の実情に応じて、学校運営に関し、以下の対応ができるようにするものです。

- 保護者や地域住民等の意向を把握し反映すること
- 保護者や地域住民等の協力を得ること
- 学校運営の状況等を周知するなど学校としての説明責任を果たしていくこと

〈本学教員が、県内10校から委嘱を受けています〉

宮城県石巻商業高等学校	宮城県石巻高等学校
石巻市立桜坂高等学校	宮城県水産高等学校
宮城県石巻西高等学校	宮城県石巻工業高等学校
宮城県石巻北高等学校	宮城県好文館高等学校
宮城県工業高等学校	宮城県東松島高等学校

◎高大接続研究事業

高校生に大学の高度な教育・研究に触れる機会を提供し、大学での“学び”の内容を理解することで、学習意欲の向上や進路選択の一助とし、相互に連携協力して魅力ある教育を実現するため、行われている事業です。

〈主な事業内容〉

(1)高校生に対する大学の授業科目の公開と単位認定
(2)大学による公開講座の実施
(3)大学の教員の高校への派遣
(4)高校の教員の大学への派遣
(5)相互の施設の開放
(6)大学生に対する高校の授業科目の公開
(7)地域との連携の推進
(8)その他高校と大学の協議の結果に基づき実施する事業

（具体的事業例は13-14ページを参照ください）

〈高大連携協定校〉

宮城県石巻商業高等学校	宮城県石巻北高等学校
宮城県東松島高等学校	宮城県水産高等学校
専修大学北上高等学校	東陵高等学校
石巻市立桜坂高等学校	宮城県好文館高等学校
宮城県石巻西高等学校	

◎単位認定

本学の正規の科目において高等学校からの履修生を受け入れ、修了した場合に単位認定するとともに、本学へ入学した場合の卒業単位にも認定するプログラムです。
高校生のうちから大学の学びに触れて意欲を高め、単位を先取りして、大学進学後により高い目標を達成することができます。（複数の協定校が実施）



単位認定証書授与式

◎公開講座の実施

▶ 授業受講・ゼミ参加

【専修大学北上高等学校】

・商業科生徒が「税務会計Ⅱ」と「ゼミナール（岡野教授・田村准教授合同）」に毎年参加しています。
・2016（平成28）年、自動車科生徒が自動車工学センターおよび工作・試験センターにおいて、講義・実習を受講しました。
・2016（平成28）年、2017（平成29）年、「復興ボランティア学ワークショップ」に参加しました。


自動車実習


復興ボランティア学ワークショップ

▶ 体験授業

【石巻市立桜坂高等学校】

毎年１年生が来校し、本学教員によるバラエティ豊かな「高校生向けの模擬授業」を、１日かけて体験しています。


人間学部人間教育学科の講義


理工学部食環境学科の実験

◎大学の教員等の高校への派遣

▶ 研究支援・指導

【宮城県石巻好文館高校】

「総合的な学習の時間『甲斐ある人といわれたいむ』」は、生徒が自分たちで考え、計画した「在り方生き方研究」や「分野別課題研究」を行い、主体的・自発的に行動できる人間になることを目指す取り組みです。毎年、本学教員が助言指導や発表会での審査などに参加しています。


本学教員による講義



研究発表会での表彰

▶ 教員による出前授業

【専修大学北上高等学校】

2017（平成29）年４月から12月の９ヶ月間、11回の総合科目講座を出前開催しました。


実践的に学ぶロボット工学
（理工学部機械工学科）


プログラミングを楽しもう!
（経営学部経営学科）


中国語を味見してみましょう
（人間学部人間文化学科）

◎学生による出張授業

2017（平成29）年、宮城県石巻西高等学校で経営学科の４名の学生が出張授業を行いました。

本学の概要や自ら取り組んでいる商品開発や地域貢献などについて説明後、「プログラミング」の授業を行い、生徒たちはプログラミング言語Scratchを使った簡単なゲーム作りに挑戦しました。


本学学生による授業


プログラミングに挑戦

◎講演会

2016（平成28）年、宮城県石巻西高等学校で、本学尾池守学長による講演会を行いました。

１年生200名を対象に「グローバル化と国際理解」をテーマに自身の研究を通し外国とどのように関わってきたのかを実際の経験を交えて講話しました。


講演会

◎その他

宮城県古川黎明高等学校の「One Day College」は、『課題研究を進めるにあたり、各分野における専門的な知識や研究に触れることで、最先端の科学技術や研究に対する興味・関心を高め、科学的な見方や考え方の有用性を知る。』ことを目的としたプログラムです。

2016年（平成28）および2017（平成29）年、生物科学など課題研究を進めるにあたり、専門的な知識や研究に触れることを目的として本学への来学が企画されました。体験授業の受講や研究室の見学の後、生徒達による研究のプレゼンテーションが行われ、本学教員のアドバイスやコメントを生徒たちは真剣に受け止めていました。


実験室を見学


理工学部生物科学科の体験授業

全国の高等学校等が、東北の被災地を巡る研修旅行の一環で宮城県を訪問し、本学に来校します。

本学では「震災の教訓を学んでもらい、石巻の魅力も感じ取ってもらいたい」と考え、震災直後の現状、地域や行政との連携協力体制や復興共生プロジェクトの概要などについて教職員から説明を行い、石巻圏域の復興の現状などを伝えています。


「震災・復興・ボランティア」と題して、復興の状況を伝える特別授業

◎ひらめき☆ときめきサイエンス 実施

科学研究費補助金（KAKENHI）によって得られた最先端の研究成果について、小中高生が直接体験することで科学の面白さを感じてもらうサイエンスプログラムです。

本学では、2015（平成27）年、2016年（平成28）年および2017（平成29）年、高校生を対象に以下のプログラムを８月に実施しています。（参加費無料）

〈プログラム〉
花のかたちはどう決まる? 遺伝子から迫る花のでき方
〈実施者〉理工学部助教　中川 繭
〈内　容〉

遺伝子は生物の設計図です。花のかたちも葉っぱのかたちも遺伝子が決めます。だから、たった一つの遺伝子が無くなるだけでかたちが大きく変わってしまうこともあります。

遺伝子が壊れてかたちがおかしくなった花を観察して、壊れた遺伝子が何をしていたのかを考えてみましょう。

・観察実習「色々な花の観察」
・観察実習「シロイヌナズナABC変異体の観察」
・グループディスカッション「観察結果を基に花器官の決定モデルを考える」
・講義「花のかたちと遺伝子の関係」



2017（平成29）年度参加者募集チラシ


花を選んで


顕微鏡を使って解剖


グループでディスカッション


修了証書を授与

市民・社会人への貢献

社会・経済の急激な変化や社会の成熟化に伴い、石巻圏域においても幅広い年齢の方々が何時でも自由に学習できるような環境や機会を提供していくことが重要となっています。

開学時より開放センターを中心に、地域の生涯学習に積極的に取り組んでいますが、これは各層の知恵や力を結集し地域が活性化すれば本学の発展にもつながるとの考えで、真の協同参画社会の実現に向けた活動に他なりません。

■みやぎ県民大学 石巻専修大学開放講座

1991（平成3）年度から継続実施している「みやぎ県民大学石巻専修大学開放講座」は、本学に蓄積された教育・研究の成果を広く県民に開放するもので、宮城県教育委員会が主催、（公財）石巻地域高等教育事業団が共催している事業です。

毎年、統一テーマを決めて、本学の教員がそれぞれの専門分野に応じて講義を分担しながら、毎週木曜日、本学を会場に開催してきました。老若男女、様々な立場の市民が参加することから、市民のニーズを汲み取りながら統一テーマを決定したり、各講師が講義内容に工夫を凝らしながら進めています。



2015（平成27）年度

統一テーマ：
オリンピック・パラリンピックを知ろう

6月4日～7月16日
毎木曜日
19時～20時30分
全7回

ねらい：オリンピック・パラリンピックを理解することによって、観戦者としてスポーツを観る楽しみ、ボランティアとして支える楽しみ、選手として実践する楽しみを実感し、豊かな生活の一助になること

「石巻市に聖火台がやって来た」
人間学部教授　山崎　省一
オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、「震災からの復興オリンピック」のスローガンが掲げられた2020年東京大会に向けた被災3県の関連行事の誘致活動、石巻市に貸与された国立競技場の聖火台の活用などについて

「オリンピック選手と心理学」人間学部助教　永山　貴洋
オリンピック選手とはどんな人かや、オリンピック選手の心理的負担などについて

「オリンピックに監督として参加して」
石巻専修大学女子競走部監督　泉田　利治
実業団チーム監督時代に育てた選手達の成長の歴史やオリンピックに監督として参加した際のエピソード、指導者哲学、本学女子競走部の目標や夢などについて

「オリンピックとスポーツ科学の発展」
人間学部教授　山内　武巳
各国のオリンピックメダルの獲得数の推移や高所トレーニングの生理学的効果などについて

「オリンピックとドーピングの歴史」
人間学部教授　山崎　省一
オリンピック選手の体の限界と心の限界、ドーピングの可否や競技別のドーピング事例などについて

「オリンピックと音楽芸術」人間学部教授　近藤　裕子
オリンピックと音楽の関係、オリンピック音楽（ファンファーレやテーマ曲等）に関わる作曲家やオリンピック記録映画に用いられている音楽などについて

「1964年東京オリンピックをDVDで振り返る」
人間学部教授　山崎　省一
1964年東京オリンピックの映像視聴と、東京オリンピック直後に2部制で開催された国際身体障がい者スポーツ大会（後に第2回パラリンピックに位置づけられる）について



2016（平成28）年度

統一テーマ：
あなたの大切なものは何ですか?

6月2日～7月14日
毎木曜日
19時～20時30分
全7回

ねらい：それぞれの講義を受講し、「自分の大切なものに気づく」、「自分の大切なものを再確認する」、「自分の大切なものをよりいっそう深める」、「自ら発信することができるようになる」こと

「たとえボケても幸せに暮らすことができるためのケアについて」
人間学部教授　照井　孫久
地域での認知症ケアへの取り組みや課題などについて

「あなたの毎日を支えてくれる大切なマイクロマシン」
理工学部教授　水野　純
われわれの生活の中に身近に使われているマイクロマシンの原理、材料、用途などについて解説。危険物処理や介護分野への応用など、マイクロマシンの未来への可能性を提案

「わが子のいのちー判決書で学ぶ『いじめ』防止・抑止—」
人間学部特任准教授　新福　悦郎
過去に発生した「いじめ自殺事件」を例に、教師は何を学ぶべきか、保護者はいつどのような対応をすれば我が子の命を守れるかなどについて講演し、受講者と意見交換

「大切なもの、私のふるさと」経営学部准教授　田村　真介
「市民の意義」「地域資源」「観光」の3つの視点からふるさとを見たときの発見や、学生視点と一般視点との違いなどを講演

「あなたは自伝に何を書きますか?
—記憶・自伝のフィクション性について—」
人間学部准教授　大縄　道子
アメリカの作家シャーウッド・アンダーソンが自伝で書いた父親像などを例に、人の記憶のあいまいさや、人は今の自分を語るのに最も都合の良いエピソードを選んで自伝を構成することなどについてや、自伝を書くときの心得を紹介

「無趣味人間の私が頭の中で密かに楽しむ化学」
理工学部教授　福島　美智子
専門分野の分析化学の道に進んだ経緯や、日常でも分析化学的な感性で生活してしまう事などを交え、"化学"というものを分かりやすく講演

「教育を哲学するということ」人間学部教授　西方　守
自身の高校・大学時代の経験や小説などを題材に、「教育哲学」とは何か、現代教育の問題点等について講演



2017（平成29）年度

統一テーマ：
やわらかな生き方
〜こころの旅〜

6月29日-7月20日
毎木曜日
19時−20時30分
全4回

ねらい：各講師がそれぞれの専門から、自然や社会や人間のやわらかさ（弾力性、寛容性、多様性）などをキーワードに「こころの旅」へと受講者を誘う。時代の変化に柔軟に対応できるような生き方を考える

「ソフト・パワーと観光」経営学部教授　丸岡 泰
ソフトパワーとは何か、地域の観光に活かせるかなど、アメリカ留学やコスタリカ日本大使館専門調査員時の経験をもとに解説

「生物の多様性を楽しむやわらかなこころ」
理工学部教授　根本 智行
植物の「学名」と「和名」の関係や違い、世界中の植物の系統、台湾など各地に植物採取（標本作製）に行った際の話を交えながら植物の多様性の楽しみ方を解説

「やわらかな心をもつために〜ポジティブ心理学からのヒント〜」
人間学部教授　佐藤　正恵
心理学において精神的回復力、"心の筋肉"とも言われるレジリエンスや、主観的幸福感（人生満足度）に影響を及ぼす要因、社会的サポートの大切さ、否定的自動思考（役に立たない思い込み）の手なずけ方などを解説

「何で英語やるの？ ～マイ・イングリッシュ・ジャーニー～」
人間学部教授　大津　幸一
自身の英語遍歴を世界の出来事や日本の英語教育の歴史と照らし合せながら講演



2018（平成30）年度

統一テーマ：
あなたの知らない
シカ・クマの世界

6月28日～7月19日
毎木曜日
15時～16時30分
全4回

ねらい：シカとクマの生態を通して、人と野生動物の共生を考える

「土屋 剛 理工学部客員教授による4回連続講座」
1.「臥薪嘗胆」　シカという動物について
2.「南のシカ、北のシカ」　牡鹿半島内外のシカの問題について
3.「クマに会ったらどうするか」　クマという動物について
4.「クマは寝たきりでも骨粗鬆症にならない」　クマの優れた能力について

今後もより良い開放講座を開講できるよう、企画していきたいと考えております。

■石巻専修大学開放講座 in 登米

登米市との包括連携協定に基づき、毎年度、地域創生や今後の地域づくり等をテーマに、開放講座を行っています。

2015（平成27）年10月～11月

テーマ	講　師
地域ブランドの形成に向けた 地域マーケティングのあり方	経営学部教授 石原　慎士
都市の活力と都市政策	経営学部准教授 関口　駿輔
地域とエネルギーの文化	理工学部教授 泉　正明
地域づくりと地域活性化	人間学部教授 佐藤　利明

2017（平成29）年3月

「リーダーシップとモチベーション」
経営学部教授　杉田　博

上司に求められるリーダーシップの能力について、野球日本代表（侍ジャパン）小久保監督の例を挙げながら、部下のパフォーマンスを引き出す環境を整え導く



「リーダーシップとモチベーション」講義風景

2017（平成29）年11月

「農山村を歩く・見る・知る」
人間学部教授　佐藤　利明

今後の人口減少社会に対しての明確な解決策はない。失敗を恐れず地域独自の資源に気づき、活用することが大事である。

岩手県の「森のそば屋」の例などを挙げながら地域の活性化等を考える



■出前講座

地域の市民団体や企業等のニーズに対して、本学の教員が出向して講義等を行います。

〈実施した講座の一部〉

テーマ	講　師	出前先
カタカナ語 目からうろこ	人間学部教授 大津　幸一	コミュニティ運営 協議会
体力を高める 科学的トレーニング	人間学部教授 山崎　省一	地域包括支援 センター
人を育てる	人間学部教授 木村　民男	ロータリー 倶楽部
「機械が感じるストレス」と 「設備保全の基礎」	理工学部准教授 高橋　智	施設管理運営 事業体

■科目等履修生・聴講生

本学では、学習機会の多様化に応え、社会人の生涯学習の振興に資することなどを目的に、授業科目の開放を行っています。募集は、前期・後期の年2回です。

【科目等履修生】

興味・関心のある授業科目や資格取得等に必要な授業科目だけを選んで、学生と同じ時間割に沿って学修できます。試験を受け、レポートを提出することなどによって単位を取得することができます。

【聴講生】

興味・関心のある授業科目を、単位取得を目的にしないで教養や専門的な知識を深めることができます。

■履修証明プログラム

本学では、2016（平成28）年度より、社会人を対象に一定のまとまりのある体系的な特別の学習プログラム（履修証明プログラム）を設けています。専門性の向上や再就職等に活用できます。

2018（平成30）年度は、2プログラムを開講。

1）コンピュータ入門コース
2）経営戦略コース



コンピュータ入門コース授業



受講者による発表

■社会人入学試験制度

強い向学心を持ち、社会経験や人生経験の豊かな者を学生として受け入れるため、一般とは別の試験制度を設けています。共に授業を受ける一般学生にも大きな刺激となっています。

■施設開放等の活動

石巻圏域の多大な支援により開学した本学は、学生や教職員が授業、サークル、調査研究等を行う際、地域の様々な配慮を受けながら活動しています。本学の施設等で、地域に不足し補完するものがあれば、地域の活性化のため授業等に支障のない範囲において積極的に開放することとしています。

教室や体育施設は、毎年度100件を超える貸し出しを行っており、そのうち主な事例を紹介します。

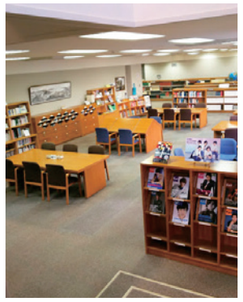
図書館（図書の閲覧・貸出）

本学では、「開かれた大学」を志向し、地域の学術・文化の向上や産業の振興の一環として、学外者（高校生以上）の図書館利用を推進しています。

図書の貸出しも無料で行っており、初めて入館した際に、入館ゲートの開閉や貸出時に必要な「利用者カード」を発行します。



入館ゲート



館内

図書館（市民参加イベント）

◎「『星の王子さま』をフランス語、英語、日本語で味わう時間」

2016（平成28）年6月、フランス文学を専門とする図書館長大谷尚文教授が、登場する言葉の語源や意味を詳しく紹介し、物語の奥に潜むメッセージを解説しました。



「星の王子さま」朗読会

◎「ビブリオバトル」

2018（平成30）年1月、学生と市民がお勧めする本を5分程度で紹介し合い、どの本が一番読みたくなったかを選びあって楽しむ本の紹介コミュニケーションゲームを実施しました。



お勧め本の魅力を伝える

市民参加シンポジウム等

◎「石巻圏域における不登校問題の現状と課題」

2017（平成29）年2月、本学内の研究組織「石巻専修大不登校問題検討会」と石巻地域不登校・ひきこもり支援ネットワークが主催。教師や保護者ら70名が参加したシンポジウム。

引きこもりへの支援活動をするNPO関係者や教育関係者らが事例を紹介して、社会全体で連携を強める必要性を確認しました。

◎「北上川改修400年記念-孫兵衛シンポジウム」

2017（平成29）年1月、土木学会東北支部・石巻市・国土交通省 東北地方整備局が主催。

市民ら300名が参加。石巻発展の礎を築いた川村孫兵衛の功績を振り返るとともに、東日本大震災からの復興まちづくりのあり方を探りました。



◎「伝承シンポジウム」

2018（平成30）年3月、「3.11メモリアルネットワーク」が主催し、本学、宮城県、石巻市、東北国営公園事務所が共催。市民ら約150名が参加。

東日本大震災の被災地で震災伝承に取り組む実践者とともに、震災の経験と教訓を、地域・世代を超えて伝え続けるための知恵を出し合い、これからについて考え、学び合いました。



◎「全国高等学校総合文化祭みやぎ総文2017」

2017（平成29）年8月、「高校生最大の芸術・文化の祭典」、全国高等学校総合文化祭「自然科学部門」が本学で開催され、全国から多くの高校生が集い、「物理」「化学」「生物」「地学」「ポスター（パネル）」の5部門で計188の研究成果の発表が行われました。



ポスター発表会場

◎「未来石巻市政策コンテスト決勝大会」

2016（平成28）年9月、2017（平成29）年10月、石巻市が主催するコンテスト。高校生・大学生のチームが「石巻市の30年後のビジョンおよび10年後の重点施策・予算案」というテーマのもと、「もし自分が市長だったらどのようなまちを創るか…」を提案発表しました。



スポーツ関連イベント会場利用

◎「ツール・ド・東北」（毎年開催）

河北新報社、ヤフー主催、本学特別協力。

宮城県沿岸部を自転車で駆け抜ける「ツール・ド・東北」で複数コースのスタート・ゴール会場となる本学は、メインステージが設置される他、物販ブースやイベント等が行われ、賑わいをみせました。



スタート

◎「いしのまき復興マラソン」

石巻市、石巻市教育委員会、河北新報社、NPO法人石巻市体育協会、石巻市陸上競技協会主催。

マラソンを通じて復興へ向かう地域の姿と、支援への感謝を発信する「いしのまき復興マラソン」。

第2回及び第3回大会は、本学が発着点となり、1,000名を超える参加者が、市民の声援を受けて爽やかな汗を流しました。



会場案内

◎「ルルブル親子スポーツフェスタ」

宮城県教育委員会主催。

親子で一緒にいろいろな運動やスポーツを体験して，体を動かす喜び・楽しさを感じるイベント。

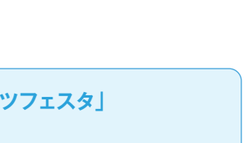
2016（平成28）年、2017（平成29）年は、本学を会場に開催され、約410組1,400名が様々な教室に参加し，親子で一緒に体を動かして広い敷地内で思い切り楽しみました。



◎「子ども自転車教室in石巻」

「ツール・ド・東北2015」のプレイベントとして、ウィラースクール、チェーンリングプロジェクト、ツール・ド・東北運営事務局が企画。

2015（平成27）年6月、小学生以下を対象に自転車の安全な乗り方を学んでもらう「子ども自転車教室in石巻」が本学を会場に開催され、正しい乗り方や止まり方、走り方の注意点について指導を受け、実技に挑戦していました。



◎「400mトラック完成セレモニー」

2015（平成27）年8月、陸上競技場400mトラックの完成に伴い、オープニングセレモニーを開催。

セレモニー終了後、記念イベントとして地元の小・中学生を対象とした「泉田利治女子競走部監督による『楽しく走ろう教室』」が行われました。



トラック全景



楽しく走ろう教室

◎「石巻圏 元気つなごう！絆フェスティバル2016」

東北電力、三陸河北新報社（石巻かほく）主催。

2016（平成28）年6月、東日本大震災後の地域復興支援をテーマとしたスポーツイベントが本学をメイン会場に開催されました。

元女子マラソン選手増田明美さんによる「ウォーキング教室」や本学女子競走部の公開練習、地元食材の料理提供などがあり、多くの参加者が楽しい時間を過ごしました。



音楽関連イベント会場利用

◎「日本とドイツ・絆コンサート」（毎年開催）

豊橋日独協会主催。

日本とドイツで活躍するプロのクラシック音楽家たちによるアンサンブルコンサートが、本学学生ホールを含む石巻市内の会場で、毎年開催されます。訪れた市民らはプロの音色に魅了されました。



◎「きぼうコンサート」

2017（平成29）年9月、ベルリン在住で国際的に活動するバイオリン奏者・小林正枝さんと、石巻市出身のピアニスト・ゲルティンガー祥子さんによる協演コンサートが、音楽を通して東日本大震災で被災した人たちの心の復興を後押ししたいとの目的で、本学など市内施設で開催されました。



その他利用

◎「期日前投票所」

2017（平成29）年10月、任期満了に伴う宮城県知事選挙と衆議院議員選挙の期日前投票所が本学本館のエントランスホールに設置されました。

これは、石巻市選挙管理委員会からの要請を受けて、本学が若者の投票率向上に向けた施策の一環として対応したもので、宮城県内の大学で期日前投票所を学内に設置するのは本学が初めての取り組みとなりました。





◎「成人式」

石巻市石巻地区の成人式が、毎年、本学を会場に行われます。本学学生を含む多くの新成人たちが集い、喜びあう姿が見られます。



◎「お花見」

毎年地域の皆様にキャンパスを開放し、ソメイヨシノをはじめとする構内約500本の桜を一般公開しています。

多くの方に学内を散策しながら、春を満喫していただければと思います。（52ページ「サクラMAP」参照）





行政機関等への貢献

石巻専修大学には、理工学部4学科、経営学部1学科、人間学部2学科、計3学部7学科、さらには大学院の2研究科があり、所属する教員の専門分野も自然科学から人文・社会科学まで多岐に亘ります。こうした高度の専門人材を多数抱える本学には、石巻市をはじめとする行政機関等から、様々な相談や要請があります。こうした依頼についても、地域貢献の観点から積極的に協力しています。

■防災・減災対応

◎防災シンポジウムへの協力

2015（平成27）年および2016（平成28）年の3月、石巻市主催の「石巻市防災シンポジウム」が本学で開催されました。シンポジウムでは基調講演やパネルディスカッションが行われ、本学教員もパネラーとして登壇し、東日本大震災の経験から教訓や共助によるまちづくり等についてコメントをしました。また、ポスター／パネル展示会は本学が中心となり、防災や地域の復旧・復興の道のりなどを取りまとめ、展示しました。


シンポジウム


ポスター展


パネル展①


パネル展②

◎避難所としての対応

本学は、石巻市の「避難所」に指定されています。

「避難所」とは、災害の危険性があり避難された住民等が災害の危険性がなくなるまでの期間滞在させ、または災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させるための施設を市が指定した施設のことです。



◎遠方地域への協力

本学が制作した「防災学習すごろく」が大分県佐伯市で活躍しています。「防災学習すごろく」はラックで組まれた通路を通りながら、設置されたパネルで防災について学習するものです。

2017（平成29）年7月、大分県佐伯市で開催された「せまる南海トラフ巨大地震 人と自然，東日本大震災の記憶展」（主催：NPO法人おおいた環境保全フォーラム）での出前展示をきっかけに寄贈し、継続利用していただくこととなりました。



「人と自然，東日本大震災の記憶展」ポスター



すごろくをしながら


パネルを見て学習

■研究員の受け入れ

本学では、地域の企業、自治体、各種団体等から専門知識・技術等の修得を目的とする職員等を、研究員として一定期間受け入れる制度を設けています。研究室、実験室等において、指導教員から直接専門的な指導を受けることができます。

宮城県食肉衛生検査所から毎年１名の研究員を継続的に受け入れています。

年度	研究課題
2015（平成27）	ロイラーにおけるカンピロバクター属菌薬剤耐性株の出現状況
2016（平成28）	リアルタイムPCRを用いた関節炎型豚丹毒迅速診断の検討
2017（平成29）	ESBL産生大腸菌の遺伝子解析

■各種委員

各自治体には、人材育成、生涯学習、地場産業の振興や街づくり、地域の活性化を図る目的等により各種審議会や委員会が設置されています。

本学にはこうした自治体から毎年、委員委嘱の要請が数多く寄せられ、地域貢献の一環から協力しています。

（一覧はP49～51を参照ください）

その他の貢献（地域経済・企業）

石巻専修大学の地域経済・企業への貢献には、大きく2つあります。1つ目は、後述する産学官連携の活動で、共同研究や受託研究に発展することもあります。2つ目は、教育機関本来の人材育成を通じた貢献です。

企業等の将来を担う人材を育て定着率増加のためにも、地域の産業界との情報交流を密に行うとともに、学生にも早い段階から現場を知る等の体験が重要と考えています。

■本学学生へのキャリア教育

（P7地域や地域貢献に関するカリキュラム参照）

■「石巻地域産業学習マップ・ハンドブック」作成

本学経営学部 舛井ゼミナール・李ゼミナールと宮城県東部地方振興事務所との共同で「石巻地域産業学習マップ」、「石巻地域産業学習ハンドブック」を作成しました。地域の次代を担う子どもたちが地域の産業について理解を深めるとともに、地域外への発信を通じて教育旅行の誘致促進につながることを期待しています。


石巻地域産業学習マップ



石巻地域産業学習ハンドブック

■就職支援

◎ハローワーク石巻との連携

毎週木曜日の13：30～15：30、本学の進路支援室内にハローワーク石巻の担当者が「新卒ハローワーク相談コーナー」を開設しています。

新卒専門のアドバイザーが、最新の求人情報の紹介、就職活動の進め方、面接時や応募書類作成時のポイントや地域の雇用情勢に応じたアドバイスなど、学生からの個別の相談に対応しています。


新卒ハローワーク相談コーナー

◎石巻専修大学主催「合同企業説明会」開催

本学学生のみを対象に、企業・団体の採用担当者を招き、事業の内容や採用試験について話を聞ける本学主催の合同企業説明会を毎年開催しています。


合同企業説明会の様子

参加する企業や団体は、本学学生を積極的に採用する意欲を持っているため、学生は志望する企業・団体への良いアピールの場となり、毎年多くの卒業生が進路先を決定しています。

〈開催例〉：2016年3月
@仙台アエル／企業・団体約100社
@石巻グランドホテル／地元優良企業をはじめ約50社

◎宮城県内へのインターンシップ支援

インターンシップとは学生が在学中に企業などで「就業体験」をすることです。本学では、2015（平成27）年度に策定した「石巻地域版インターンシップに関するガイドライン」に基づき、3年生対象のインターンシップを支援しています。

〈宮城県内企業へのインターンシップ実施状況〉
2015（平成27）年度　27名（16社／団体）
2016（平成28）年度　82名（32社／団体）
2017（平成29）年度　40名（24社／団体）

また、2017（平成29）年8月に本学1・2年生を対象に、石巻商工信用組合への「半日インターンシップ」を企画し、3名が参加しました。

「企業が地域経済を支える役割とは」「復興への取り組みをどのように果たしているのか」「石巻地域で働くこととは何か」などについて、インターンシップを通して学びました。

〈宮城県内／石巻圏内への就職状況〉

年度	就職者数	うち宮城県内（割合）	うち石巻圏内（割合）
2015（平成27）	168名	79名（47.0%）	17（10.0%）
2016（平成28）	171名	69名（40.3%）	14（ 8.1%）
2017（平成29）	228名	86名（37.7%）	22（ 9.6%）

その他の貢献（学生・教職員の活動）

石巻専修大学における地域との連携・交流の幅が年々拡大しています。学生のサークル活動や自主的な活動、正課のゼミ活動においても様々な取り組みが行われ、最近では学外機関から全国表彰を受けるなどの顕著な活躍も見られます。

本学では、地域の発展と学生自身の成長のため、こうした地域に係わる取り組みを、今後とも積極的に支援することにしています。

■「石巻川開き祭り」への参加

石巻川開き祭りは、伊達政宗の命により北上川を開削した川村孫兵衛重吉の偉業をたたえ、大正5年から始まった由緒ある祭事です　本学も開学以来、様々な形で関わっていましたが、2015（平成27）年から8月1日を「地域貢献日」とし、学内関係者により「地域貢献日活動プロジェクト」を立ち上げ、「石巻川開き祭り」を全学的な行事と位置付けて参加しています。

◎縄張神社
奉納大縄引き大会



2019（平成30）年、
悲願の優勝を果たした

◎孫兵衛船競漕



学生と教職員の合同チームが
全員で息を合わせる

◎流燈



鎮魂の想いを込めて



燈篭を川に流す

◎祭りのあとのゴミ拾い



早朝、学生・教職員が地域の方と
協力して街を綺麗に

◎大漁踊り



お揃いの浴衣を着て、
石巻の街に彩りを添える

◎模擬聖火トーチリレー



2018（平成30）年は、1964年の東京五輪で使用したトーチを手にした女子競走部の学生たちを先頭に、約200名が石巻市中心街を駆け抜けた

■石鳳祭

石鳳祭とは、学生サークルの石鳳祭実行委員会が中心になって開催する大学祭です。

毎年10月に開催し、在学生、卒業生はもちろん、地域にお住まいの方にもご来場いただいています。研究結果の展示・紹介や、クラブやサークルによる演奏等の披露、地場産品や地元飲食店による石巻焼きそばなどの販売もあり、学生と地域の交流の場となっています。毎年、学生がテーマを決め、企画・実行します。

2015（平成27）年

テーマ：咲（さく）
「笑顔という花をたくさん咲かせたい、石鳳祭を通じて石巻市民に笑顔を与えたい」





大勢の来場客で賑わう

2016（平成28）年

テーマ：REFORM
「苦難を乗り越え新たな道を切り開き生まれ変わりたい。過去の形態にとらわれず、一から見直し改革することで、新たな石鳳祭を表現し作り上げる」





お茶についての講演と茶会

2017（平成29）年

テーマ：画竜点睛
「それぞれの役割を認知し、石鳳祭が終わる最後の時まで力を尽くし、来場される皆様に満足していただけるようにしたい」





フリーマーケットも盛況

■女子競走部の活動

2017（平成29）年10月石巻市総合運動公園で開催された「スポーツフェスタ石巻2017」のランニング教室で、泉田監督と部員が子どもたちに指導しました。



泉田監督による指導



女子競走部員と子どもたち

■硬式野球部の活動

◎2015（平成27）年11月に、石巻地区6高の高校球児対象の「宮城県高等学校野球連盟東部支部技術講習会」と、小・中学生対象の「石巻野球フェスティバル」が開催されました。どちらも100名以上が参加するイベントでしたが、本学野球部監督と部員が参加者それぞれのレベルに応じたアドバイスやトレーニング指導等を行い、野球の楽しさを共有しました。

◎毎年12月に、御神体の巨石が「落ちそうで落ちない石」の姿から、受験の神様として知られている釣石神社（石巻市北上町）で、本学野球部員や職員が地元の方々と共に、しめ縄・ヨシの輪作成作業と境内の清掃活動を行っています。



高校生にアドバイス



落ちそうで落ちない石

■支援サークル「ひだまり研究会」の活動

本学学生が、毎月第2日曜日に大学内（体育館、サッカー場など）にて子どもたちと遊び、体を動かす「にこにこプレーパーク」を開催。石巻市内から幼稚園児や小学生が集まり、楽しい時間を過ごします。

また、仮設住宅や復興住宅集会所などで、住民の方々と体操や料理などを共にし、親睦を深める活動も行っています。



グラウンドで水遊び



５月は鯉のぼりアート

■耕人塾の活動

「耕人塾」は、2012（平成24）年、「石巻地域の中・高校生の『人間力』を磨き、地域や社会に貢献する人材を育成する」という趣旨で、本学特任教授（当時）木村民男氏が開塾しました。「世界に誇れる石巻地域にしよう～発信未来へ～」のテーマで、毎年度、20～30名の石巻地域の中・高校生の塾生が、地域で活躍している方々からのお話の聴講、課題解決のためのグループ学習のほか、清掃活動など様々な活動に取り組んでいます。

本学、宮城県、石巻市、東松島市、女川町の教育委員会他が後援し、運営には本学教員も参加し、指導には小・中学校教諭や民間企業、団体からも協力者が集まり、活動の輪が広がっています。

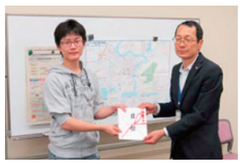


耕人塾ホームページ
https://koujinjyuku.jpn.org/

■その他

◎2016（平成28）年、本学は4月に発生した熊本地震災害の緊急支援として学内で受け付けた義援金10万円を石巻市福祉部に寄託し、日本赤十字社を通じ熊本県に届けられました。「東日本大震災の時に寄せられた多くの善意に少しでもお返したい」と、大学と学生会が連携し呼び掛け、学内に募金箱を設置したものです。

◎2016（平成28）年7月、18歳選挙権が初めて導入された参議院選挙の期日前投票に、石巻市選挙管理委員会からの依頼を受け、学生13人が立会人や案内係をつとめました。その後、石巻市と本学の地域連携事業の一環として、石巻市選挙管理委員会が企画した座談会が2017（平成29）年から始まり、投票率向上に繋がる意見交換を重ねています。この取り組みが大学構内での期日前投票所開設などにつながっています。



石巻市福祉部に義援金の目録を渡す学生会長

◎2017（平成29）年1月、本学学生と石巻警察署の協同により「110番の日（主催：石巻警察署）」と題するイベントを実施しました。当日は、学生約40名が参加し、普段見ることができない「犯人制圧の実演」や警察官の制服を着用した「学生ファッションショー」を行いました。

■学外から本学関係者への表彰

2015（平成27）年度

石巻地域高等教育事業団特別表彰（石巻地域高等教育事業団）

所　属	氏　名	授　与　理　由
山崎泰央ゼミナール	吉久　幸希（経3）	仮設住宅における支援活動および震災を伝える活動
石鳳祭実行委員会	八重柏 わか（理3）	大学祭実施、市内復興イベント参加、ボランティア活動

食材王国みやぎ推進優良活動表彰ブランド化部門「大賞」（宮城県）

所　属	氏　名	授　与　理　由
石原慎士ゼミナール	藤原　優真（経4）	宮城県の食産振興において活躍

第9回いしのまき大賞（石巻商工会議所）

所　属	氏　名	授　与　理　由
石原慎士ゼミナール	藤原　優真（経4）	石巻市の経済発展、産業振興において活躍



石巻地域高等教育事業団特別表彰
山崎泰央ゼミナール



第9回いしのまき大賞

2016（平成28）年度

石巻地域高等教育事業団特別表彰（石巻地域高等教育事業団）

所　属	氏　名	授　与　理　由
山崎泰央ゼミナール	長谷川 悠（経3）	仮設住宅における支援活動および震災を伝える活動
支援サークル「ひだまり」	菅原　怜央（人1）	子供たちの支援「にこにこプレーパーク」の実施
石巻専修大学学生会	阿部　貴之（理3）	市内復興イベント参加、ボランティア活動、参議院議員通常選挙スタッフ活動

平成28年度地産地消等優良活動表彰「東北農政局長賞」（農林水産省・東北農政局）

所　属	氏　名	授　与　理　由
石原慎士ゼミナール	伊藤 大亮（経4）	「石巻・飯野川発サバだしラーメン」開発など、地域の水産物や農産物を有効活用したこと

フード・アクション・ニッポンアワード2016「入賞」（農林水産省）

所　属	氏　名	授　与　理　由
石原慎士ゼミナール	伊藤 大亮（経4）	地域間連携開発商品の「鳥取・境港発カニだしラーメン」の開発において、国産農林水産物の消費拡大に寄与したこと

平成28年度社会人基礎学力育成グランプリ北海道東北地区予選大会「準優秀賞」（社会人基礎力協議会）

所　属	氏　名	授　与　理　由
山崎泰央ゼミナール	長谷川　遥（経3） 菊地　倫（経3） 柿沼　翔（経2）	復興ボランティア学ワークショップの活動を通して、ゼミナール生の社会人基礎力が成長したこと

第3回エルトゥールル号からの恩返し 日本復興の光大賞17「特別賞」（日本トルコ文化交流会）

対　象	授　与　理　由
山崎泰央ゼミナール	メンバーが入れ替わる中で6年間も復興支援を継続していること



石巻地域高等教育事業団特別表彰
石巻専修大学学生会



地産地消等優良活動表彰
「東北農政局長賞」



フード・アクション・ニッポンアワード
2016「入賞」



日本復興の光大賞17「特別賞」

2017（平成29）年度

石巻地域高等教育事業団特別表彰（石巻地域高等教育事業団）

所　属	氏　名	授　与　理　由
山崎泰央ゼミナール	柿沼　翔（経3）	復興公営住宅コミュニティ支援、「3.11未来へつなぐ復興の輪」主催　復興ボランティア学ワークショップ開催等
石巻専修大学学生会	阿部　将（人3）	市内復興イベント参加、ボランティア活動、石巻市長選挙運営スタッフ活動等

日本地域政策学会第16回全国大会のポスターセッション（個人の部）「会長賞」（大宮登日本地域政策学会会長）

所　属	氏　名	授　与　理　由
石原慎士ゼミナール	松川　美希 （博経営3）	地域活性化に向けた連携モデルを学術的に提案した優れた研究

FM学生ラジオCMコンテスト2017「FM仙台賞」（株式会社エフエム仙台）

氏　名	授　与　理　由
嶋 倫子（人4）	本学のイメージを五七五調のリズムで耳心地良くまとめ、コピーの最後を「地域密着型石巻専修大学」で締めくくったこと

未来いしのまき「最優秀賞」（石巻市）

対　象	授　与　理　由
岡野・田村合同ゼミナール	石巻のそろばん文化の復活を目指し、人と人との交流や石巻の発展を推進したいという発表

サイバー犯罪対策活動「感謝状」（宮城県警察本部サイバー犯罪対策課）

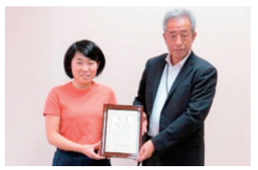
氏　名	授　与　理　由
溝口 衛（理3）	「大学生サイバーボランティア活動」に参加し、主にTwitterを中心とするインターネット上の違法情報や有害情報の通報、アカウント削除対応を行ってきたこと

観光王国みやぎおもてなし大賞「奨励賞」（宮城県）

所　属	氏　名	授　与　理　由
石原慎士ゼミナール	松川　美希 （博経営3）	地域活性化に向けた連携モデルを学術的に提案した優れた研究

平成29年度日本学生野球協会 表彰選手（日本学生野球協会）

所　属	氏　名	授　与　理　由
硬式野球部	小野　侑宏（経4）	主将としてチームを牽引し、8年ぶりの全日本大学野球選手権大会出場に貢献



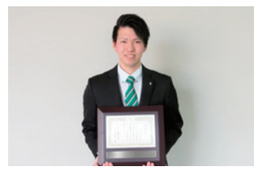
FM学生ラジオCMコンテスト
2017「FM仙台賞」



未来いしのまき「最優秀賞」



観光王国みやぎおもてなし大賞「奨励賞」



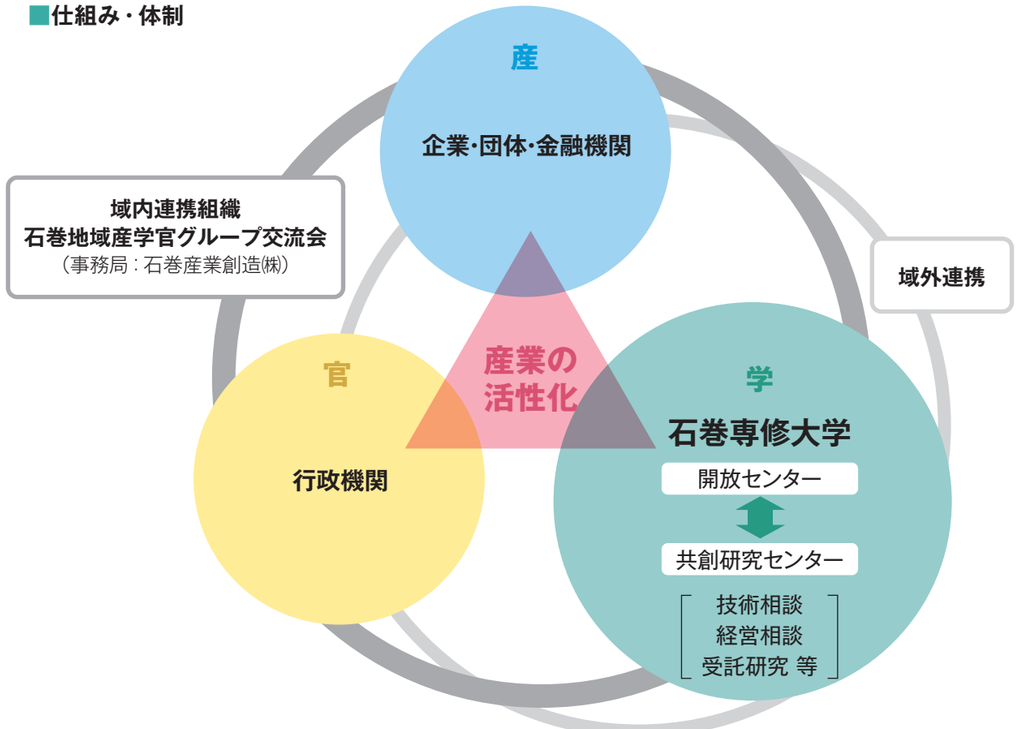
平成29年度日本学生野球協会 表彰

産学官連携

石巻専修大学は、開学当初より地域産業の振興に寄与するため、産学官連携の推進を開放センターの設置目的の1つに加えています。地域発展のためには、大学の教育研究資源を市民（生涯学習）と産業（産学官連携）に活かしていくことが必要と考えました。その後の石巻地域産学官グループ交流会の発足や産学金連携（ISプロジェクト）などにつながります。

2009（平成21）年４月には共創研究センターが発足し、地域課題を研究プロジェクトとして積極的に取り上げ、開放センターの活動を研究面から支援しています。最近においては、グローバル化・IT化等、社会・経済を取り巻く環境が著しく変化していること、高等学校や大学などの教育現場にも少子化等に伴う教育改革が強く求められていることから、従来の産業振興の成果を強く意識した連携に留まらない、生徒や学生を巻き込んでのゆるやかな活動のような、これまでとは違った視点での取り組みも広がりつつあります。

■仕組み・体制



■石巻地域産学官グループ交流会活動

石巻地域産学官グループ交流会とは、石巻地域の産（企業・団体・地域金融機関）・学（教育機関）・官（石巻市等の行政関係者）で組織する会です。地域産業の活性化を目指して1999（平成11）年に発足しました。

この交流会は2018（平成30）年度より、環境部会等の3部会を解消し、組織のフラット化による柔軟な連携を進めることになりました。新体制の中でも、地域の唯一の高等教育機関である本学は中心的な役割を担っています。2019（平成31）年２月には新しい取り組みとして、企業の方へ大学の研究を紹介する「第１回研究シェアリング・プログラム」を開催しました。

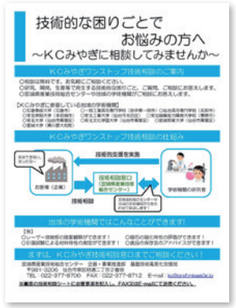

本学学長の講演の様子

■KCみやぎ推進ネットワーク活動

KCみやぎ推進ネットワークは、2005（平成17）年度に活動を開始した、県内外の大学・高等専門学校等が企業等からの技術相談にワンストップで対応するネットワークです。

地域企業からのニーズに応えるため、学術機関の技術相談のワンストップ対応をはじめ、経済・産業団体、支援機関、金融機関などの支援メニューと合わせて、技術相談から技術指導、事業化までの各種支援を行っています。

本学の開放センターが相談窓口の一つとなっています。



■石巻信用金庫との連携

本学は、石巻信用金庫と2007（平成19）年３月に協定を締結し、様々な連携事業（ISプロジェクト）を行っています。

◎産学金連携コーディネータ認定研修

2015（平成27）年、地域における中小企業の中長期的な視点での経営戦略について学ぶ全３回の研修会を実施しました。本学経営学部教員の講演やグループワークなどの研修を終えた石巻信用金庫職員 16 名にコーディネータ認定証が授与されました。


研修中



認定証を授与され記念撮影

◎いしのまきイノベーション企業家塾

主催：石巻信用金庫
共催：石巻市、東松島市、
　　女川町
協力：石巻専修大学 他

2014（平成 26）年度から開講している「いしのまきイノベーション企業家塾」で、本学経営学部長の杉田 博教授が、毎年度「経営戦略の考え方」というタイトルで講義を担当しています。



■石巻市創業ビジネスグランプリへの協力

主催：石巻市

石巻市の地域資源を活かしたビジネスプランやビジネスアイデアを全国から募集し、石巻市内での創業促進や起業家意識の醸成を図ることを目的に開催するイベントで、本学は第１回から共催機関として協力しています。



■登米市産業フェスティバルへの出展等

主催：登米市産業フェスティバル実行委員会

登米市は、モノづくり企業等の紹介や市民に触れ合いの場を提供する産業フェスティバルを毎年開催しています。包括連携協定を締結している本学は、「大学移動ラボ」と称してものづくり体験ブース等を出展し協力してきました。

2018（平成30）年の出展では、同年夏に登米市シティプロモーションサポーターに認定された本学経営学部益満 環ゼミナールが参加し、ゼミ生が開発した登米市PRグッズ50点を販売し、全て完売しました。



■「あ・ら・伊達な道の駅」への協力

◎2015（平成27）年7月～2016（平成28）年2月

経営学部庄子 真岐ゼミナールは、道の駅、大崎市、国土交通省仙台河川国道事務所との連携企画で、「あ・ら・伊達な道の駅」に関する提言書をまとめ遠藤駅長に提出しました。

学生が現地調査等を行い、道の駅のポジションを踏まえながら、重点課題として

① 地域情報の発信拠点機能の強化
② 若者を呼び込む新たな魅力の創出
③ 外国人観光客への対応

以上３点を掲げ、改善策や企画の立案等に取り組みました。学生の提言書は、道の駅の今後の活性化に活かされます。


駅長による施設案内


学生から駅長へ
「最終成果報告書」の提出

◎2017（平成29）年11月～2018（平成30）年3月

経営学部山崎 泰央ゼミナールは、国土交通省仙台河川国道事務所の協力のもと、「あ・ら・伊達な道の駅」の長期振興ビジョンづくりに参加しました。

毎月１回のペースで現地を訪れ、駅職員の方と一緒にワークショップ形式で、将来の道の駅像を考えました。

現在の延長線上から考える「フォアキャスティング」ではなく、未来のありたい姿から現在までの道のりを考える「バックキャスティング」を基本的なガイドラインとし、全４回にわたって実践的なワークショップを実施しました。


現地調査


売り場の改善提案を考え発表

■石巻フードツーリズム研究会の活動

JR東日本仙台支社、石巻魚市場、石巻商工会議所、水産加工会社・食品製造会社、道の駅「上品の郷」、および経営学部石原 慎士ゼミナールが連携し、2016（平成28）年１月、石巻フードツーリズム研究会を設立しました。

同研究会では、水産都市らしい着地型観光商品を企画・開発しています。

2016（平成28）年および2017（平成29）年には、JR東日本と共同で「駅からハイキング」を4回企画・実施しました。

石巻魚市場、水産加工会社、津波避難タワー、鮮魚店などを歩いて巡り、各所で関係者から詳しい説明を受けるという観光コースを企画したもので、毎回、関東や東北各地から多くの方々に参加いただきました。


石巻駅前を出発


魚市場を見学


タラコ作りを体験


雨の中、商店で触れ合い

■街歩きイベントの企画

2015（平成27）年6月、人間学部庄子 真岐ゼミナールが、街歩きイベント「石巻専修大学生と行く　石巻まちなか今昔物語」を実施しました。

JR東日本仙台支社企画の「駅長オススメの小さな旅」に学生企画として応募し実現したもので、ゼミ生５名は2014年度共創研究センタープロジェクト事業で作成した「石巻まちあるきコースマップ『石巻まちなか今昔物語』」を活用しながら、入念に下調べした情報を基に、各ポイントで解説を行い、石巻市内の魅力を紹介しました。


石巻まちあるきコースマップ
「石巻まちなか今昔物語」



東北各地から28名が参加

■水田調査

2016（平成28）年および2017（平成29）年6月、JAみやぎ登米が主催する「環境保全米田んぼの生き物調査」に理工学部の角田研究室が参加し、南方町や東和町の水田とその周辺の水生生物の生息状況調査を実施しました。

調査を行った水田は、農薬の散布量や種類を制限した環境にやさしい米作りが行われている所です。調査結果は、「生物多様性マップ」の作成に役立てる予定です。


環境保全米田んぼにて


生き物を採取

地域関連研究等

石巻専修大学は、開学時より開放センターを整備し、地域の産業や教育文化の振興を図ってきました。

2009（平成21）年４月には、研究面からの支援を強化するため共創研究センターを設置しました。並行して研究資金、助成の仕組み等の見直しや充実も進めてきました。

本学では、今後も引き続き地域の課題に対して、開放センターと共創研究センターとが連動しながら、解決に向けて積極的に対応していくこととしています。

■仕組み・体制



IK地域研究

■2015（平成27）年度

研究題目	研究者（代表）
地域間連携による製品開発事業に関する実証的研究	経営学部教授　石原 慎二　他2名
学習の主体的な学びを促す先進的な取り組みの調査研究	経営学部教授　山崎 泰央　他2名

<研究成果発表会>

2016（平成28）年7月27日　石巻市役所 4階 庁議室



石原 慎二 教授



山崎 泰央 教授

■2016（平成28）年度

研究題目	研究者（代表）
石巻産養殖マガキ軟体部に含まれる微量元素の多元素分析	理工学部教授　福島 美智子
石巻地域における産学連携ものづくり教育の構築	理工学部准教授　高橋 智　他2名
教育現場へのアクティブラーニングの効率的導入に関する研究	経営学部教授　山崎 泰央　他2名

<研究成果発表会>

2017（平成29）年8月30日　石巻市役所 4階 庁議室



福島 美智子 教授



髙橋 智 准教授



山崎 泰央 教授

■2017（平成29）年度

研究題目	研究者（代表）
牡鹿半島のモミ(Abies firma)を用いた放射性セシウムのモニタリングと動態の検討	理工学部教授　福島 美智子　他3名
初年次教育におけるアクティブラーニング実施の効果に関する研究	経営学部教授　山崎 泰央　他2名

<研究成果発表会>

2018（平成30）年10月11日　石巻専修大学5301教室



福島 美智子　教授



山崎 泰央 教授

■2018（平成30）年度

研究題目	研究者（代表）
石ノ森章太郎萬画によって地域の人と文化と学生をつなぐための実践研究	人間学部准教授　遠藤 郁子
アクティブラーニングの地域における普及方法に関する研究	経営学部教授　山崎 泰央　他2名

<研究成果発表会>

2019（平成31）年度　開催予定

IS奨学研究

■2015（平成27）年度

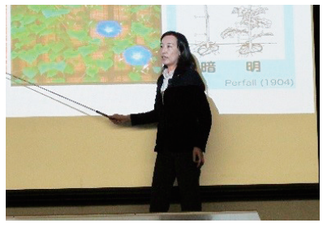
研 究 題 目	研 究 者
ヨシ繊維を配合した3Dプリンター用フィラメントの試作と特性評価	理工学部准教授　高橋 智
低光量でも徒長が抑制されるシロイヌナズナ変異体の解析	理工学部助教　中川 繭
石巻市の地域企業のレジリエンス強化のための 重要要因に関する研究	経営学部准教授　工藤 周平

＜研究成果発表会＞

2016（平成28）年10月13日　石巻専修大学 4号館 4101教室



高橋 智　准教授



中川 繭　助教



工藤 周平　准教授

■2016（平成28）年度

研 究 題 目	研 究 者
光によって制御される植物の茎伸長機構の解析	理工学部助教　中川 繭
IoTを地域産業に活用するための基礎的研究	経営学部准教授　舛井 道晴
地域産業活性化に向けた異業種連携のあり方に関する研究	経営学研究科博士後期課程2年　松川 美希
大学近接の仮設住宅等における小・中学生の学習環境の実態と その対応策（学習支援等を中心に）	人間学部特任教授　田中 秀典

＜研究成果発表会＞

2017（平成29）年9月21日　石巻専修大学 4号館 4101教室



中川 繭　助教



舛井 道晴　准教授



松川 美希　経営学研究科生



田中 秀典　特任教授

■2017（平成29）年度

研 究 題 目	研 究 者
機械学習によるごみの自動分別	理工学部助教　劉 忠達
異なる波長のLEDの照射が高密度飼育時の ヒラメの生育に及ぼす影響	理工学部助手　角張 博聡
多様なアライアンスによる新事業の展開手法に関する研究	経営学研究科博士後期課程3年　松川 美希
ビブリオバトルによって地域の人と文化と学生をつなぐための 実践研究	人間学部特任准教授　遠藤 郁子

＜研究成果発表会＞

2018（平成30）年9月10日　石巻専修大学 4101教室



劉 忠達　助教



遠藤 郁子　特任准教授

■2018（平成30）年度

研 究 題 目	研 究 者
石巻地域の養殖マガキに含まれる元素濃度の養殖海域及び 栄養価に関する評価	理工学部教授　福島 美智子
牡鹿半島のニホンジカ由来の鹿茸の免疫系細胞に対する影響	理工学部准教授　奈良 英利
中小企業のICTに対する経営者リーダーシップと ICT利活用との関係分析	経営学部准教授　工藤 周平
石巻地域における社会教育行政及び施設の整備課程に関する研究	人間学部助教　杉浦 ちなみ

＜研究成果発表会＞

2019（平成31）年度　開催予定

石巻専修大学研究助成（ISU研究助成）

■2015（平成27）年度

研究題目	研究者（代表）
学生の芸術的創造性を育む教育支援プログラムの開発 ～ハンドベルの作品制作・編曲、演奏、楽譜制作～	人間学部教授　近藤 裕子
人権教育としての被災者体験教材プログラム開発の研究	人間学部特任准教授　新福 悦郎
金属酸化物半導体の合成および薄膜化の研究	人間学部教授　恵原 貴志　他2名
学校教育問題解決への教育的・心理的・福祉的アプローチの省察 ～石巻地区での深刻な不登校問題との関連から～	人間学部教授　照井 孫久　他4名

■2016（平成28）年度

研究題目	研究者（代表）
教科書における花器官ABCモデルの記載事例の解析とその検証	理工学部助教　中川 繭
シャドーイングと英文多読による英語読解力、聴解力、プロソディの向上について	人間学部准教授　大縄 道子
いじめ問題関連判決書を活用した授業や教員研修の可能性と課題 ー東アジアにおけるいじめ実践・研修の比較関連調査（台湾との国際比較）ー	人間学部特任准教授　新福 悦郎
モミ（Abies firma）における放射性セシウムの動態の検討	理工学部教授　福島 美智子　他3名
学校教育問題解決への教育的・心理的・福祉的アプローチの省察（Ⅱ） ー石巻地区での深刻な不登校問題との関連からー	人間学部教授　照井 孫久　他4名

■2017（平成29）年度

研究題目	研究者（代表）
酸化マグネシウム基板上の酸化ガリウム薄膜の結晶配向性の研究	理工学部教授　中込 真二
ニホンジカの成長ホルモンの一塩基多型（SNP）と体の大きさとの関係	理工学部教授　土屋 剛
中小企業の経営戦略とレジリエンスの関係性分析:宮城県北部沿岸地域企業の事例	経営学部准教授　工藤 周平
中学校社会教育における地域教材開発の研究 ー石巻地区の歴史素材を重点にしてー	人間学部教授　新福 悦郎
周波数変化型加速度センサの特性解明に関する研究	理工学部教授　菅原 澄夫　他2名
学校教育問題解決への教育的・心理的・福祉的アプローチの省察（Ⅲ） ー石巻地区での深刻な不登校問題との関連からー	人間学部教授　照井 孫久　他2名

■2018（平成30）年度

研究題目	研究者（代表）
国内の食材に含まれる微量元素の他元素分析	理工学部教授　福島 美智子
電気および二酸化炭素による海産魚の沈静化の検討	理工学部教授　角田 出
東日本大震災後の石巻市の情報通信政策に関する調査研究	経営学部教授　益満 環
不登校支援についての実践的研究 ー関係機関との連携を中心にー	人間学部教授　照井 孫久　他2名

受託研究

■2015（平成27）年度

研究題目	受託先	研究者（代表）
〈非公開〉	株式会社日立製作所	理工学部教授　亀谷 裕敬
EMS制御複合型微細藻バイオマス生産システムの開発	国立大学法人東北大学	理工学部教授　佐々木 洋　他1名
エネルギー&モビリティ統合インターフェースの研究開発	国立大学法人東北大学	理工学部教授　工藤 すばる　他4名
〈非公開〉	株式会社イーセブンジャパン	理工学部教授　山本 憲一　他1名
〈非公開〉	日本電産コパル電子株式会社	理工学部特命教授　若月 昇
花のかたちはどう決まる? 遺伝子から迫る花のでき方	独立行政法人日本学術振興会	理工学部助教　中川 繭

■2016（平成28）年度

研究題目	受託先	研究者（代表）
〈非公開〉	株式会社日立製作所	理工学部教授　亀谷 裕敬
可搬型非常用電源装置改良・実用化	国立大学法人東北大学	理工学部教授　工藤 すばる　他4名
藻類バイオマス生産の効率化	国立大学法人東北大学	理工学部教授　佐々木 洋　他2名
〈非公開〉	日本電産コパル電子株式会社	理工学部特命教授　若月 昇
生物化学の手法を活用した掘削土・刈草・除伐材の 資源化技術開発の検討	東北地方整備局北上川下流河川事務所	理工学部准教授　玉置 仁　他1名
花のかたちはどう決まる? 遺伝子から迫る花のでき方	独立行政法人日本学術振興会	理工学部助教　中川 繭
サバの水産加工残滓を活用した機能性食品の開発に関する研究	宮城県産業技術総合センター	経営学部教授　石原 慎士　他1名
由利本荘市公共施設データベースの設計と評価	公立大学法人秋田県立大学	経営学部准教授　工藤 周平

■2017（平成29）年度

研究題目	受託先	研究者（代表）
〈非公開〉	株式会社日立製作所	理工学部教授　亀谷 裕敬
〈非公開〉	仙台スマートマシーンズ株式会社	理工学部教授　山本 憲一
生物化学の手法を活用した掘削土・刈草・除伐材の 資源化技術開発の検討	東北地方整備局 北上川下流河川事務所	理工学部准教授　玉置 仁　他1名
花のかたちはどう決まる? 遺伝子から迫る花のでき方	国立研究開発法人科学技術振興機構	理工学部助教　中川 繭
データから見た東北	公益財団法人東北活性化研究センター	経営学部准教授　関口 駿輔
〈非公開〉	日本電産コパル電子株式会社	共創研究センター特別研究員 若月 昇

■2018（平成30）年度

研究題目	受託先	研究者（代表）
生物化学の手法を活用した掘削土・刈草・除伐材の 資源化技術開発の検討	東北地方整備局 北上川下流河川事務所	理工学部教授　玉置 仁　他1名
〈非公開〉	仙台スマートマシーンズ株式会社	理工学部教授　山本 憲一
〈非公開〉	株式会社日立製作所	理工学部教授　亀谷 裕敬
低コスト250℃動作p/n-MOSFETの開発	国立研究開発法人科学技術振興機構	理工学部教授　中込 真二
ニホンジカ生息数・動態調査	石巻市	理工学部准教授　奈良 英利　他1名
花のかたちはどう決まる? 遺伝子から迫る花のでき方	国立研究開発法人科学技術振興機構	理工学部助教　中川 繭
東北圏経済に関するエビデンスベースの課題解決型政策提案 ～東北圏社会経済白書を活用して～	公益財団法人東北活性化研究センター	経営学部准教授　関口 駿輔　他1名

共創研究センタープロジェクト事業

■2015（平成27）年度

1.研究プロジェクト

研 究 題 目	研 究 者 （ 代 表 ）
東日本大震災による被災と学生の健康指標等の関係に関する調査研究	理工学部教授　坂田 隆　他2名
宮城産ギンザケの質的優位性と市場適応性に関する研究	理工学部准教授　鈴木 英勝　他3名
石巻まちあるきコースマップの制作II ーまちあるきマップ制作手法の構築に関する研究ー	人間学部准教授　庄子 真岐　他2名
二市一町の小学校における学習支援の現状と目的及び組織的地域連携の在り方	人間学部特任教授　田中 秀典　他5名
ドローン活用によるシカ駆除の効率化と生息数の把握	理工学部教授　土屋 剛　他3名
石巻圏域移輸出入率推計 ～地方版総合戦略に向けて～	経営学部准教授　関口 駿輔　他2名

2.社会還元事業

研 究 題 目	研 究 者 （ 代 表 ）
発達障害児をもつ母親への育児支援と支援者養成	人間学部教授　佐藤 正恵　他2名

3.石巻専修大学と石巻市による地域連携事業

研 究 題 目	研 究 者 （ 代 表 ）
オープンデータ活用による犯罪発生情報共有システムの開発	経営学部准教授　益満 環　他4名
石巻市の食文化を生かした製品開発の方策に関する研究	経営学部准教授　李 東勲　他3名

<研究成果発表会>

2016（平成28）年7月21日　石巻専修大学 4号館 4201教室







■2016（平成28）年度

1.研究プロジェクト

研 究 題 目	研 究 者 （ 代 表 ）
マイクロ･ナノ技術を用いた水産物の高品質化	理工学部教授　角田 出　他4名
東日本大震災による被災と学生の健康指標等の関係に関する調査研究	理工学部教授　坂田 隆　他2名
宮城産活締め銀鮭の質的優位性と価値形成に関する研究	理工学部准教授　鈴木 英勝　他3名
牡鹿半島内外のニホンジカの生息数の把握	理工学部教授　土屋 剛　他3名
海水産･淡水産の微細藻類由来のバイオ燃料生成	理工学部教授　佐々木 洋　他4名
三陸産業再生ネットワークによる産業復興策に関する研究	経営学部准教授　李 東勲　他5名
異業種連携型商品開発事業の適応性と応用に関する研究	経営学部教授　石原 慎士　他5名

2.社会還元事業

研 究 題 目	研 究 者 （ 代 表 ）
放課後児童クラブ指導員の専門性向上のための支援	人間学部教授　佐藤　正恵　他4名

3.石巻専修大学と石巻市による地域連携事業

研 究 題 目	研 究 者 （ 代 表 ）
オープンデータ活用によるシステム構築に関する研究	経営学部教授　益満 環　他3名

<研究成果発表会>

2017（平成29）年7月20日　石巻専修大学 4号館 4102教室







■2017（平成29）年度

1.研究プロジェクト

（1）石巻専修大学研究ブランディング「震災復興から地域資源の新結合による産業創出へ」につながる研究プロジェクト

研 究 題 目	研 究 者 （ 代 表 ）
宮城県産活締めギンザケ筋肉の部位別品質比較	理工学部准教授　鈴木 英勝　他3名

（2）その他プロジェクト

研 究 題 目	研 究 者 （ 代 表 ）
マイクロ･ナノ技術を用いた水産物の高品質化	理工学部教授　角田 出　他4名
石巻圏域三自治体での東日本大震災後の学校給食の復旧	理工学部教授　坂田 隆　他2名
暗視カメラによる牡鹿地方のニホンジカの生息数の推定	理工学部教授　土屋 剛　他2名
異業種連携型商品開発事業の適応性と応用に関する研究	経営学部教授　石原 慎士　他5名
大学生のための事業承継教育プログラムの構築	経営学部教授　杉田 博　他2名
デラフォサイト型酸化物の合成と薄膜化に関する研究	人間学部教授　惠原 貴志　他2名
学習支援の質向上とボランティア運営の一元化を図る方策	人間学部特任教授　田中 秀典　他4名

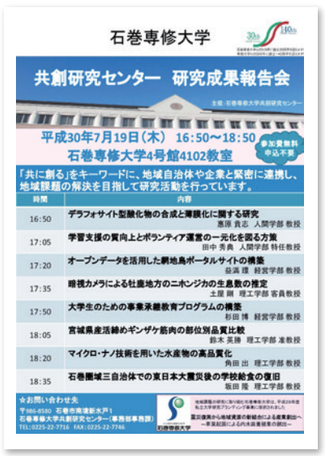
2.社会還元事業（なし）

3.石巻専修大学と石巻市による地域連携事業

研 究 題 目	研 究 者 （ 代 表 ）
オープンデータを活用した網地島ポータルサイトの構築	経営学部教授　益満 環　他4名

＜研究成果発表会＞

2018（平成30）年7月19日　石巻専修大学 4号館 4102教室





■2018（平成30）年度

1.研究プロジェクト

研 究 題 目	研 究 者 （ 代 表 ）
活締めギンザケのおいしさに影響する脂質の研究※	理工学部准教授　鈴木 英勝　他2名
石巻圏域三自治体での東日本大震災後の学校給食の復旧	理工学部教授　坂田 隆　他2名
縦ねじり変換器を用いた新しい圧電振動子の基礎研究	理工学部教授　工藤 すばる　他2名
直流電気装置の災害時事故発生要因調査と対策の研究	理工学部教授　山本 憲一　他5名
学習支援の質向上とボランティア運営の一元化を図る方策	人間学部特任教授　田中 秀典　他3名
「気になる」子どもの保育支援に関する研究	人間学部助教　平川 久美子

2.社会還元事業

研 究 題 目	研 究 者 （ 代 表 ）
大学研究ブランディング持続のための調査と研究発信	理工学部教授　中込 真二　他2名
石巻が拓く太平洋世界―石巻･ハワイ交流史	人間学部助教　目黒 志帆美

3.石巻専修大学と石巻市による地域連携事業

研 究 題 目	研 究 者 （ 代 表 ）
地域特産オリーブを活用したオリーブ銀鮭の開発※	理工学部教授　角田 出　他3名
オープンデータ活用した地域情報アプリの開発	経営学部准教授　舛井 道晴　他4名

※石巻専修大学研究ブランディング「震災復興から地域資源の新結合による産業創出へ」につながる研究プロジェクトに認定

＜研究成果発表会＞

2019（平成31）年度開催予定

私立大学研究ブランディング事業

震災復興から地域資源の新結合による産業創出へ―草葉起源による内水面養殖業の創出―

【研究概要】

石巻専修大学の研究ブランディング事業は、震災等の影響で利用されなくなった耕作放棄地等において牧草などを栽培し、それを原料として餌を作り、内水面（陸上の養殖水槽）において魚介類を育てる循環型内水面養殖の試みです。生物・環境・情報工学など知の融合によって技術開発を進め、新しい養殖法の確立を目指し、さらには、経営学や人間学の視点も取り入れて事業化や人材育成につながるよう発展させるものです。

なお、本事業の研究期間は３年間となります。（2016（平成28）年度～2018（平成30）年度）

■背景

東日本大震災から５年（申請時）が経過し、被災地にある大学として、今後の地域のさらなる発展のためには、復興の先を見据えた取り組みが求められるものとして、地域の資源に着目し新たな結合によって産業創出や雇用へとつなげていく研究を今後とも推進することが、本学のブランド（独自色）であると考えました。

これは、地域とともに歩んできた本学ならではの発想に基づくもので、これまでもこれからも『地域課題の解決に取り組む石巻専修大学』という研究姿勢を貫くとともに、地域貢献ひいては地域の活性化や産業創出等につながるように、より一層の意欲を持って取り組もうとするものです。

【事業イメージ】



石巻圏域（石巻市、東松島市、女川町）

■事業実施体制

本事業は、学長のリーダーシップにより全学的な研究の基本方針等を審議する「石巻専修大学研究推進委員会」の元で決定・推進され、具体的な研究の実施については地域課題研究を目的に設置された共創研究センターが担っていきます。センター内では、多分野の研究者から成る研究プロジェクトを立ち上げ、３つの研究グループで分担して進めます。

◎第１研究グループ「内水面養殖システムの構築」
　責任者／理工学部教授　高崎 みつる（研究リーダー）
◎第２研究グループ「流通とマーケティングの確立」
　責任者／経営学部准教授　庄子 真岐
◎第３研究グループ「研修システムの確立」
　責任者／人間学部教授　柳　明

■主な取り組み

◎2016（平成28）年度活動

研究が円滑に進むよう全体調整を十分に行い餌料生産に関する基礎研究、流通手法や普及・研修システムに関する基礎情報の整理などを中心に実施

◎2017（平成29）年度活動

10月7日　私立大学研究ブランディング事業講演会を開催

「石巻専修大学のブランディング事業の概要」
　第１研究グループ　理工学部教授　高崎 みつる
「本学のブランディング事業―文献検索より―」
　第２研究グループ　経営学部准教授　工藤 周平
「人材育成のための自然環境プログラム」
　第３研究グループ　人間学部教授　山崎 省一




「クラゲ展示のブランド作り20年の軌跡」
　山形県鶴岡市立加茂水族館館長　奥泉 和也氏
「資源増殖の新たな手法を求めた活動実践について」
　山形県立加茂水産高等学校主任実習教諭　本間 伸栄氏




＜パネルディスカッション＞
「本学のブランディング事業が地域に根差すためには」
「若い人に水産業の魅力を伝えるために」

12月12日　研究の要となるコンクリート製大型養殖水槽が完成

長さ9m･幅4m･深さ2mの水槽と、
長さ1m･幅4m･深さ2mの２つのサブ水槽で構成
独自の噴流の仕組みと制御システムにより、
さまざまな自然環境を再現しての実験が可能となった




◎2018（平成30）年度活動

5月9日　東松島市から、東日本大震災の影響を受けた農地の一部を借用

借用した農地を実証試験圃場とし、牧草等の植物生産に向けた本格的な実証試験を開始




6月15日　石巻専修大学演習林隣の敷地に実証試験圃を整備

魚のエサとなり得る生物の培養実験を行い最適な餌料の選定、餌料生産の効率化を目指す

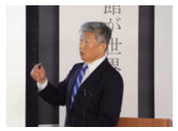



11月8日　石巻専修大学創立30周年記念事業「私立大学研究ブランディング事業シンポジウム」を開催

■第１部　特別講演
「東北の魚で考える、ブランドとは何か」
　株式会社ウエカツ水産代表取締役、東京海洋大学客員教授　上田 勝彦氏
「落ちこぼれ水族館が世界一へ」
　山形県鶴岡市立加茂水族館元館長、現シニアアドバイザー　村上 龍男氏




■第２部　研究成果発表会
研究課題：震災復興から地域資源の新結合による産業創出へ
―草葉起源による内水面養殖業の創出―
「内水面養殖システムの構築」
　第１研究グループ　理工学部教授　高崎 みつる
「流通とマーケティングの確立」
　第２研究グループ　経営学部准教授　庄子 真岐
「研修システムの確立」
　第３研究グループ　人間学部教授　柳　明



※2019年度以降も石巻専修大学のブランドとして、関連する研究を継続していく予定。

復興共生プロジェクト

石巻専修大学では、東日本大震災を契機に2011（平成23）年度より「復興共生プロジェクト」として、地域防災や復興の取り組みを始めました。そうした取り組みに対し、文部科学省から補助事業（大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業）として2件採択（単独1件、「復興大学」として東北工業大学等との共同1件）され、2015（平成27）年度まで様々な活動を展開してきました。特に、「石巻市沿岸部の復元立体模型」の製作・展示は、石巻市民の心の復興として大きな反響を呼びました。また、今では全学共通の基本教育科目になっている「復興ボランティア学」は、市民にも開放され防災や復興の人材育成に貢献しています。

補助事業の終了によって復興共生プロジェクトは一つの区切りを迎えたことから、2016（平成28）年度以降は大学の既存の制度を活用したり、新たな助成措置を求めたりしながら、復興後も視野に地域の発展に向けた取り組みを引き続き進めています。

こうした中、2016（平成28）年11月には、本学の「震災復興から地域資源の新結合による産業創出へ ー草葉起源による内水面養殖業の創出ー」〈2016（平成28）～ 2018（平成30）年度〉が、文部科学省の私立大学研究ブランディング事業に採択されるとともに、宮城県は2017（平成29）年度から学都仙台コンソーシアムの枠組みを活用した支援に乗り出し、新たな「復興大学」が始まっています。

＜プロジェクト例＞

■3Dプリンタ活用による石巻市沿岸部の復元立体模型の製作

復興のための元気、希望、奮起を醸成するきっかけとなることを願い、2011（平成23）年7月から、東日本大震災により被災した石巻市門脇町・南浜町周辺の復元立体模型の製作に取り組みました。

建物や地形を立体的に製作できる3Dプリンタを活用し、震災前の石巻市沿岸部の住宅、工場、商店一軒一軒まで詳細に復元することを目指しました。

2012（平成24）年7月、全作業工程が終了し、多くの方々の手に触れて頂くため、各所で展示を行いました。

2012（平成24）年度	
7月～8月	石巻信用金庫本店
9月	石巻信用金庫向陽支店
12月	東京エレクトロンホール宮城
2月～3月	石巻市役所
2013（平成25）年度	
6月	石巻信用金庫開北支店
8月	石巻専修大学 「青少年のための科学の祭典2013」石巻大会
10月	石巻専修大学 NHK仙台放送局 「NHK公開復興サポートin石巻（公開収録）」
11月	石巻専修大学 「3Dプリンタによる立体模型（門脇小学校）製作の体験教室」
2014（平成26）年度	
8月	石巻市役所 国土交通省東北地方整備局「宮城県における復興記念公園基本計画検討調査有識者委員会」
10月	門脇小学校 石巻市南浜地区の未来を考える会 「第１回市民ワークショップ」
11月	門脇中学校 石巻市南浜地区の未来を考える会 「第２回市民ワークショップ」
11月～2月	武藤工業株式会社ショールーム （東京都世田谷区）
2月	門脇小学校 「門脇小学校旧校舎の立体模型」の制作会
2015（平成27）年度	
11月～	東日本大震災メモリアル南浜つなぐ館



復元立体模型

◎協賛
石巻信用金庫／国際航業株式会社／財団法人前川報恩会／日本電気株式会社／ NECネットイノベーション株式会社／MUTOHホールディングス株式会社
◎協力
拓建技術株式会社／株式会社西條設計コンサルタント

■復興ボランティア学

復興ボランティア学については７ページを参照ください。

高大産連携プロジェクト

「地域の人材育成と活性化」を共通のテーマとして、石巻圏域の高等学校、大学、産業との連携によるプラットホームを形成し、３者協力のもと、圏域の資源に対する理解を深めながら、各々の強みや特色を最大限に引き出す取り組みです。大学の特色だけでなく、地域の特色に繋がる事業への発展も目指しています。

右記の形式で各プロジェクトを紹介します。

プロジェクト名

①プロジェクトメンバー：石巻専修大学
②プロジェクトメンバー：石巻圏域の高等学校
③プロジェクトメンバー：企業・法人
④期間
⑤概要・目標
⑥活動概要（2017（平成29）年度末現在）

■2016（平成28）年度

Code for Ishinomaki 2016

①経営学部　舛井 道晴准教授ゼミナール
②宮城県石巻工業高等学校
③一般社団法人イトナブ石巻
④2016（平成28）年５月～ 2017（平成29）年１月
⑤スマートフォンなどの活用による実生活で利用可能なサービスの提供を目指すとともに、自らが生活する地域を自らの力で改善できる若者を育成します。
⑥「若者たちがITの力で石巻を盛り上げるにはどうすればよいか」という課題のもと、石巻圏域の風光明媚な景色をヴァーチャルリアリティ（VR）で擬似体験できるスマートフォンアプリケーション「Iscene」と、石巻の四季を１分程度で楽しめるウェブサイト「巻scape」を制作しました。

2017（平成29）年１月には石巻市役所において最終プレゼンテーションを実施。３月にはイオンモール石巻で成果発表の体験イベントを行い、来館者にヘッドマウントディスプレイを装着してもらい、VRを体験してもらいました。

「巻scape」▶http://makiscape.starfree.jp/



「巻scape」トップページ



イオンモール石巻での成果発表体験イベント

石巻地域3者連携ものづくりプロジェクト

①理工学部准教授　高橋 智
②宮城県石巻工業高等学校
③今野梱包株式会社
④2016（平成28）年７月～ 2017（平成29）年３月
⑤「強化ダンボールを活用した防災用品の開発」をテーマとして、石巻圏域の教育機関と企業が連携し、ものづくりの実践的な機会を通して、若い世代の育成と地域の活性化を目指します。
⑥ブレインストーミングによるアイデア出し、若者を対象としたアンケート調査などを経て、高校生と大学生がそれぞれ提案したアイデアを基に強化ダンボールの防災用品を作製しました。

2017（平成29）年２月には、本学を会場に最終報告会を開催し、大学生のアイデアである「折り畳み椅子」「台車」「パーティション」、高校生のアイデア「スリッパ」の試作品が完成し発表されました。



ミーティングで構想を発表



本学での最終報告会

高大産連携によるラジオ放送プロジェクト

①経営学部　舛井 道晴准教授ゼミナール
②宮城県石巻西高等学校
③石巻コミュニティ放送株式会社（ラジオ石巻）
④2016（平成28）年７月～ 2017（平成29）年３月
⑤ラジオ番組、映像コンテンツ、高校生ラジオ番組の制作を通じて、若い感性で捉えた情報を石巻圏域に発信し、地域の活性化を図ります。
⑥石巻圏域の高等学校で唯一放送部を持つ宮城県石巻西高等学校の生徒、石巻圏域を可聴範囲とするラジオ石巻、そして舛井ゼミナールの学生が共同で番組制作を行い、若い感性による地域への情報発信に取り組みました。

ラジオ番組の制作が活動の中心でしたが、ご当地CMやインターネットへの配信動画などのコンテンツ制作に関することを学び、実践的な活動を推進しました。



生放送前の打ち合わせ



収録中

■2017（平成29）年度

（1）Pepper社会貢献プログラム（3か年）

ソフトバンクグループ株式会社による「Pepper社会貢献プログラムソーシャルチャレンジ」に、本学が申請した「高大

産連携によるPepperを活用した地域の人材育成・活性化プロジェクトの推進」が優秀賞を受賞しました。

これにより同社から３年間無償で貸与されたPepper30台とモバイルWi-Fiルーターを活用した５つのプロジェクト進めています。

なお、全てのプロジェクトは共通で、

③プロジェクトメンバー（企業・法人）はソフトバンクグループ株式会社。

④期間は2017（平成29）年４月から2020（平成32）年３月（予定）です。

震災伝承プロジェクト

①経営学部教授　益満 環
②宮城県石巻商業高等学校
⑤石巻市を訪れる外国人観光客に対してPepperが多言語で震災当時の様子や復興の歩みを紹介します。
⑥「震災伝承館などの来館者向け情報案内コンテンツの開発」に向け、生徒と学生が取り組んでいます。
2018（平成30）年1月、本学で「映像制作ワークショップ」を開催し、映像表現の基本や編集技術などについて学びました。


第1回合同ミーティング


映像制作のプロを迎えて学習

まちなかポスタープロジェクト

①経営学部准教授　舛井 道晴
②石巻市立桜坂高等学校
⑤石巻市内の商店街や企業の情報を発信するポスターをPepperが紹介することで、よりクリエイティブに石巻市の魅力を伝えます。
⑥発信したい石巻の魅力のアイデア出し、IT企業社員による説明・助言の聴講、ロボアプリの体験などを踏まえ、生徒が考えた石巻に関するクイズをPepperが質問し、解答するアプリ「石巻博士」を学生がプログラミングしました。


「石巻博士」活用に向けて意見交換


「かわまち交流センター」で石巻の魅力をPR

「まちの防災」を考えよう

①理工学部准教授　高橋 智
②宮城県石巻工業高等学校
⑤小・中学生の防災意識を高めるためにPepperと共に地域の現状を考える出張授業を実施します。
⑥Pepperを活用して防災コンテンツを開発しながら、小・中学生の防災意識向上につなげる出前授業を展開しました。初年度は石巻市を中心に３校への出前授業を行い、2018（平成30）年度からは東松島市等での実施を計画しています。


小学校へ出前授業

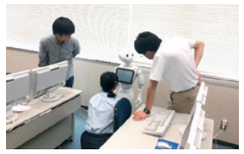


市内の防災イベントで取り組みを紹介

Pepperとデジタルマップを活用した地域復興

①理工学部准教授　佐々木 慶文
②宮城県石巻工業高等学校
⑤被災地の復興状況などをPepperと3Dマップ やQRコードを組み合わせて案内します。
⑥Pepperを活用しながら地域の活性化につながる様々な取り組みを行います。高校生が作成したアプリの設計図を基にディスカッションを繰り返し、技術支援してアプリの完成を目指しています。


ディスカッション


動作確認

複数台のPepperによるヒューマンインターフェイスの活用

①理工学部准教授　佐々木 慶文
②宮城県石巻工業高等学校
⑤複数台のPepperが連動してコミュニケーションできるロボアプリを開発し、地域住民のコミュニケーションツールとして活用します。
⑥大学生による技術の提供やサポートに基づき、宮城県石巻工業高等学校電気部の生徒は、2017（平成29）年８月に本学を会場に開催された第41回全国高等学校総合文化祭において、「マルチ『Pepper』環境におけるコミュニケーション手法の研究」というテーマのもと、複数台のPepperと人間の関わり合いについて発表を行いました。


合同ミーティング


みやぎ総文2017で活動を紹介

（2）こめぼこ商品化プロジェクト

①理工学部教授　坂田 隆、経営学部教授　杉田 博
②宮城県石巻北高等学校、宮城県水産高等学校
③株式会社楽天野球団、株式会社阿部蒲鉾店
④2017（平成29）年４月～2018（平成30）年３月
⑤2017（平成29）年３月に本学と株式会社楽天野球団が締結した連携協定に基づく取り組みの第１弾。
宮城県石巻北高等学校及び宮城県水産高等学校が共同開発している「こめぼこ」（魚のすり身に米粉を練りこんだかまぼこ）の商品化を目指し、本学及び阿部蒲鉾店が専門性・実践性からサポートするとともに、楽天野球団が販売機会を提供します。
⑥2017（平成29）年
4月　キックオフイベント開催
5月　宮城県石巻北高等学校と宮城県水産高等学校による合同田植えを実施。楽天野球団ジュニアコーチ牧田明久氏や本学学生などが参加。
7月　Koboパーク宮城、宮城峡において商品発表会見を実施。
7~8月　Koboパーク宮城及び石巻市民球場において「こめぼこ」を販売。生徒・学生が、延べ５日間で販売目標数2,100パックを完売。
9月　阿部蒲鉾店本社において活動報告会を開催。


商品発表会



活動報告会

（3）復興まちづくり情報交流館プロジェクト

①人間学部教授　根本 泉、人間学部教授 佐藤 利明
②宮城県石巻高等学校、宮城県石巻好文館高等学校、宮城県石巻北高等学校、石巻市立桜坂高等学校
③石巻市復興まちづくり情報交流館
④2017（平成29）年８月～2018（平成30）年２月
⑤石巻圏域の被災からの復興と地域の魅力を内外に広くアピールすることを目指して、石巻市復興まちづくり情報交流館「牡鹿館」「雄勝館」「北上館」の各チラシを日本語版と英語版で作成します。
⑥2017（平成29）年
7月　キックオフイベント
9月　３地区の産業や文化、震災からの復興状況などを理解するためのフィールドトリップを実施。
10~12月　情報の整理などを行う合同ワークショップを実施。


雄勝地区でフィールドトリップ


完成したチラシ（雄勝館版の一部）

2018（平成30）年
2月　チラシ完成
3月　石巻市役所にて完成お披露目会

（4）ロボットプログラミング体験教室

①経営学部　工藤 周平准教授ゼミナール
②宮城県立支援学校女川高等学園
③株式会社 富士通コンピュータテクノロジーズ
④2017（平成29）年12月～2018（平成30）年２月
⑤「ロボットプログラミング体験教室」を企画実施し、高校生や大学生がロボットの組み立てやプログラミング体験を通じて、ものづくりの楽しさを共有し、科学技術に関する知識を深めます。
⑥2017（平成29）年
12月 東北大学で開催された「震災復興支援家族ロボット教室」に、工藤准教授と６名の本学学生が事前研修を兼ねて参加。
2018（平成30）年
2月　宮城県立支援学校女川高等学園を対象に教育用レゴブロックを活用した「ロボットプログラミング体験教室」を開催。


事前研修


プログラミングしたロボットで競走

2018（平成30）年２月、に平成29年度のプロジェクト報告会を本学において開催しました。

平成29年度高大産連携プロジェクト報告会
高校×大学×企業＜地域の教育力で地域を活性化＞

主催　石巻地区高等学校長協会、石巻専修大学
後援　石巻市教育委員会、東松島市教育委員会、女川町教育委員会
協力　（公財）石巻地域高等教育事業団

＜特別講演＞
ソフトバンクグループ株式会社
人事部CSRグループ
マネージャー池田昌人 氏

＜取り組み紹介＞
高大産連携プロジェクトに参加する高校生と大学生が主体的に取り組むプロジェクトの活動や成果を紹介。
高校生・大学生・企業・自治体・市民の方が一同に集まり、高大産連携と石巻地域の魅力についても懇談しました。





地域の国際化等への貢献

グローバル化は経済に留まらず、人や情報さらには政治、宗教、文化など様々な範囲にまで及び、石巻市のような地方都市においても例外ではありません。これからの地域には、グローバルな視点で物事を考え、活かすことができるグローカルな発想をもった人材が不可欠になっています。

石巻専修大学は、開学時より国際交流センターを設け、海外との交流協定締結、教員及び学生の派遣や受け入れなど、教育研究の国際化を図ってきました。2013（平成25）年度には地域の要請も踏まえ、専門的に異文化理解や外国語によるコミュニケーション能力の習得が可能な人間文化学科を設置しました。本学では、今後とも地域への波及や貢献などの面も加味しながら、国際化の推進に引き続き努めていきます。

■大学間協定・組織間協定

ワシントン大学（米国） 工学部・文理学部・海洋水産学部	2000（平成12）年～
モンゴル国立大学（モンゴル）	2002（平成14）年～
中国石油大学（中国）	2005（平成17）年～

上記3大学とは2016（平成28）年をもって終了

温州大学（中国） 2007（平成19）年～

石巻市と中国の温州市が2005（平成17）年11月に締結した友好都市の協定が縁となり、本学も温州大学と2007（平成19）年に学術・教育交流の協定を締結しました。学生の派遣や受け入れれなどを中心に交流事業を実施してきましたが、協定締結から10年を迎えた2017（平成29）年、さらなる交流の活発化をめざして協定の更新を行いました。

ランドルフ・メーコン大学（米国） 2018（平成30）年～

石巻市の外国語指導助手（ALT）で東日本大震災の犠牲となったテイラー・アンダーソンさんの母校であるランドルフ・メーコン大学と本学は、テイラーさんのご両親により設立された「テイラー・アンダーソン記念基金」の支援を受け、2015（平成27）年と2016（平成28）年の2年間にわたり、お互いの大学を訪問する交流を行ってきました。この交流が契機となり、2018（平成30）年1月1日付で、学生・教職員の留学や訪問交流を目的とした国際交流の協定を締結しました。

■協定大学との交流

温州大学（中国） 2007（平成19）年～

◎学生の派遣（交換留学生10ヶ月）
2016（平成28）年1名、2018（平成30）年1名

◎学生の受け入れ（夏期短期研修生1週間）
2015（平成27）年10名
（他に引率教員1名）

◎学生の受け入れ
（交換留学生10ヶ月）
2015（平成27）年3名
2016（平成28）年2名


温州大学で他の留学生達と

ランドルフ・メーコン大学

◎学生の派遣（交流プログラム1-2週間）
2015（平成27）年5名（他に引率教職員2名）
2016（平成28）年5名（他に引率教職員2名）

◎学生の受け入れ（交流プログラム1-2週間）
2015（平成27）年4名（他に引率教職員6名）
2016（平成28）年4名（他に引率教職員5名）

◎その他の交流
2017（平成29）年1月、2018（平成30）年7月、学生・教職員が来学
2017（平成29）年8月~2018（平成30）年5月、経営学部教授1名がフルブライトプログラムによりランドルフ・メーコン大学で招聘研究


歓迎会（本学屋上で）


ランドルフ・メーコン大学学長と丸岡教授

■協定大学以外との交流

◎教員の派遣
2018（平成30）年、長期研究員としてベトナムに1名、
中・短期研究員として英国に1名
（※詳細は48ページ「各種支援制度」の欄参照）

◎教員の受け入れ
2017（平成29）年6月、福島 美智子 理工学部教授の共同研究者のAmares Chatts氏（カナダ・ダルハウジー大学）が来学し食環境学科で特別授業を実施しました。

◎学生の派遣
体験型授業科目の一環でシアトルパシフィック大学へ派遣（3週間）
2016（平成28）年4名（他に引率教員が1名）
2017（平成29）年6名（他に引率教員が1名）

◎その他の交流
2015（平成27）年3月、「テイラー・アンダーソン記念基金」によりテイラー文庫が図書館に設置されました。

2015（平成27）年4月、米国「友好の木ハナミズキ・イニシアチブ」により、20本のハナミズキが札幌米総領事出席のもとキャンパス内に記念植樹されました。

震災以降、多くの外国人が来学し、テイラー文庫やハナミズキを見学しています。


テイラー文庫


ハナミズキ記念植樹

■各種支援制度

◎外国人留学生入学試験
外国籍の方を対象に特別入試として「外国人留学生入学試験」を行っています。
2016（平成28）年1名、2017（平成29）年4名
（※人数は入試実施年の手続者数）

◎「私費外国人留学生奨学生制度」の経済支援
私費外国人留学生に対する経済支援のため給付型の奨学金制度を設けています。
2017（平成29）年1名

◎「石巻専修大学在外研究員制度」による教員派遣
研究等のため専任教員を一定期間海外に派遣する支援をしています。期間により長期研究員（8か月以上1年以内）と中・短期研究員（1か月以上6か月以内）があります。

【長期研究員】
2018（平成30）年9月-2019（平成31）年8月
関口 駿輔　経営学部准教授
国民経済大学公共政策経営研究所（ベトナム）

【中・短期研究員】
2018（平成30）年8月-2018（平成30）年10月
茂木 克昭　経営学部教授
Royal Institute of International Affairs
（王立国際問題研究所）（英国）

◎その他の制度利用による教員派遣
・学校法人専修大学「相馬学術奨励基金」
（※直近3ケ年における該当者はなし）
・フルブライトプログラム
2017（平成29）年8月-2018（平成30）年5月
丸岡 泰　経営学部教授　ランドルフ・メーコン大学（米国）

◎「外国人客員研究員制度」による海外の研究者受け入れ
外国の大学等研究機関において教育・研究に従事している者を外国人客員研究員として1年間を限度に受け入れる制度があります。（※直近3ヶ年における該当者はなし）

◎学生派遣
【短期研修】学生の短期海外研修を後押しするため、全学共通科目として「国際体験研修（旧海外語学研修）」や人間文化学科の専門科目として「現地語学実習」などを配置し、費用の一部を補助しています。
（※実績等は「協定大学との交流」及び「協定大学以外との交流」の欄を参照）

【長期留学】協定大学とは交換留学生の制度により派遣先での授業料が免除されるほか、留学先で修得した単位は最大30単位まで卒業単位に認定されます。
（※実績等は47ページ「協定大学との交流」の欄参照）

◎学生受け入れ
【短期研修】滞在中の交流や各種活動が円滑に進むように様々な支援を行っています。
【長期留学】交換留学生のための教育プログラムを準備しているほか、家賃補助やサポート学生の配置（SA）なども行っています。

■国際化に役立つカリキュラム

◎外国語のスキルアップに役立つ科目
外国語（英語、中国語、フランス語、ドイツ語、韓国語）を基礎から学ぶためのカリキュラムが全学共通で編成され、社会人にも開放（科目等履修生、聴講生）されています。
なお、これらの外国語を学び検定試験等で一定の成果を出した場合、奨学金が給付される「在学生キャリア支援奨学生」も設けています。

◎異文化体験に役立つ科目
2~3週間の日程で海外に学生を派遣する科目として「国際体験研修（全学共通、旧海外語学研修）」「現地語学実習（人間文化学科）」があります。異文化体験はもちろん、集中して学ぶため外国語のスキルアップにも役立ちます。なお、渡航費用の一部が補助されます。

◎外国語や異文化について専門的に学ぶための科目
2013（平成25）年度に開設した人間文化学科には、英語、中国語、フランス語などをより深く専門的に学ぶための科目（例「言語学概論」「中国文学論」「フランス文化論」等）が用意されています。

■地域における国際交流

石巻市には、2017（平成29）年のデータで1,012名の外国人登録者がいます。市では、「いしのまき多文化共生推進プラン」を策定し、外国人にも住みやすい環境づくりを進めています。地域には、在日外国人を支援する石巻市国際交流協会等の組織も多数あります。本学では、学生の参加も促しながら、学外組織とも連携し地域の国際化に協力しています。

◎石巻市が主催する「じゃぱNeeds塾」
石巻市に住む外国人が生活する上で必要な知識、日本文化や風習を学び、外国人同士さらには日本人住民と交流することを目的とした企画。

◎「国際サークル友好21」が主催する交流会
石巻地方在住の外国籍市民を支援する任意団体「国際サークル友好21」が取り組む交流会などの活動。


本学を会場に「多文化フェスティバル」


お花見会は民俗衣装で

公的機関等より委嘱された委員

■理工学部

教員名	委員名	委嘱機関名	27 年度	28 年度	29 年度
足立　岳志	石巻市複合文化施設整備市民懇談会委員	石巻市	○	○	
阿部　知顕	ＮＢＲＰ細胞性粘菌運営委員会	筑波大学生命環境系		○	○
	学校評議員会委員	宮城県石巻西高等学校		○	○
	石巻市食育推進会議委員	石巻市	○		
尾池　　守	（公財）慶長遣欧使節船協会評議会評議員	（公財）慶長遣欧使節船協会		○	○
	㈶七十七ビジネス振興財団評議員	㈶七十七ビジネス振興財団		○	○
	いしのまき復興マラソン大会準備委員会委員	いしのまき復興マラソン大会準備委員会		○	○
	ツール・ド・東北実行委員会顧問	㈱河北新報社，ヤフー㈱		○	○
	みやぎ工業会顧問	みやぎ工業会		○	○
	聖火リレー出発地・聖火台誘致委員会副会長	聖火リレー出発地・聖火台誘致委員会		○	○
	石巻港整備・利用促進期成同盟会顧問	石巻港整備・利用促進期成同盟会		○	○
	石巻市国際交流協会顧問	石巻市		○	○
	石巻市地域まちおこし協力隊×右腕プログラム受入事業者選考委員	石巻市			○
	石巻商工会議所顧問	石巻商工会議所		○	○
	石巻商工会議所青年部顧問	石巻商工会議所		○	○
	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会宮城県推進委員	宮城県			○
	東北学院大学外部評価委員会委員	東北学院大学外部評価委員会		○	○
	東北工業大学外部評価委員	東北工業大学		○	○
亀山　充隆	（独）大学改革支援・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員	（独）大学改革支援・学位授与機構		○	○
工藤すばる	科学研究費委員会専門委員	（独）日本学術振興会	○	○	○
坂田　　隆	東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド共同利用運営委員会委員	東北大学大学院農学研究科・農学部		○	○
	日本災害復興学会 2016 年度石巻大会委員長	日本災害復興学会		○	
	平成 29 年度管理栄養師専門分野別人材育成事業 「教育養成領域での人材育成」新会議委員	（特非）日本栄養改善学会			○
佐々木　洋	国立極地研究所一般共同研究員	情報・システム研究機構国立極地研究所	○	○	○
	情報・システム研究機構国立極地研究所運営会議南極観測審議部会委員	情報・システム研究機構国立極地研究所	○	○	○
	情報・システム研究機構国立極地研究所南極観測委員会生物圏分科会委員	情報・システム研究機構国立極地研究所	○	○	○
島田　了八	学校評議員会委員	宮城県工業高等学校	○	○	○
	学校評議員会委員	宮城県石巻工業高等学校	○	○	○
	石巻市環境審議会委員	石巻市	○	○	○
菅原　澄夫	学校評議員会委員	宮城県石巻西高等学校	○		
鈴木　英勝	河北地域まちづくり委員	石巻市			○
	学校評議員	宮城県石巻北高等学校	○	○	○
高崎みつる	非常勤研究員	（一社）建設工学研究振興会			○
	北上川水系河川整備学識者懇談会員	国土交通省東北地方整備局		○	○
玉置　　仁	宮城県環境審議会水循環保全基本計画策定専門委員	宮城県	○		
土屋　　剛	宮城県自然環境保全審議会専門委員	宮城県	○	○	○
	宮城県特定鳥獣等保護管理計画検討・評価委員会ツキノワグマ部会委員	宮城県	○	○	○
	宮城県特定鳥獣等保護管理計画検討・評価委員会ニホンジカ部会委員	宮城県	○	○	○
	宮城県特定鳥獣等保護管理計画検討・評価委員会委員	宮城県	○	○	○
	宮城県南奥羽山系カモシカ保護地域通常調査専門指導委員	宮城県教育委員会	○	○	○
	石巻市農政対策審議会委員	石巻市	○		
	特別天然記念物カモシカ保護指導委員	宮城県教育委員会	○	○	○
	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー	農林水産省生産局	○	○	○
鳴海　史高	石巻市廃棄物対策審議会委員	石巻市	○	○	○
根本　智行	「植物研究誌」編集委員会委員	㈱ツムラ	○	○	○
	河川水辺の国勢調査アドバイザー	国土交通省東北地方整備局	○	○	○
	国際命名規約邦訳委員会委員	植物分類学会			○
	石巻市環境審議会委員	石巻市	○	○	○
芳賀　信幸	石巻市介護保険運営審議会委員	石巻市	○	○	○
	石巻市障害福祉推進委員	石巻市	○	○	○
	石巻市地域包括ケア推進協議会委員	石巻市	○		
	石巻市地域包括支援センター運営協議会委員	石巻市	○	○	○
	石巻市地域密着型サービス運営委員会委員	石巻市	○	○	○
	第 41 回全国高等学校総合文化祭（みやぎ総文 2017） 自然科学部門に係る第 1 回審査委員	第 41 回全国高等学校総合文化祭			○
福島美智子	宮城県グリーン購入促進委員会委員	宮城県	○	○	○
	宮城県保健環境センター評価委員	宮城県	○	○	○
	京都大学原子炉実験所共同利用研究委員	京都大学原子炉実験所	○	○	○
	山形県廃棄物処理施設審査会委員	山形県	○	○	○

教員名	委員名	委嘱機関名	27 年度	28 年度	29 年度
福島美智子	廃棄物処理施設専門委員	宮城県	○	○	○
	放射線安全取扱部会東北支部委員	（公財）日本アイソトープ協会	○	○	○
松谷　武成	学校評議員	宮城県水産高等学校	○	○	○
	水産物地方卸売市場運営協議会委員	石巻市	○	○	○
水野　　純	いしのまき多文化共生社会推進懇談会委員	石巻市			○
山本　憲一	ＩＭプロジェクト顧問	ＩＭプロジェクト	○	○	○
	みやぎカーインテリジェント人材育成センター運営委員	宮城県経済商工観光部			○
	学校評議員	宮城県米谷工業高等学校	○	○	○
	希望郷いわて国体競技リハーサル大会競技役員	希望郷いわて国体宮古市実行委員会	○		
	北東北３県自動車技術研究会顧問	北東北３県自動車技術研究会	○	○	○
吉原　　章	㈶科学計測振興会理事	㈶科学計測振興会	○	○	○
	石巻商工会議所参与	石巻商工会議所	○	○	○
	第 41 回全国高等学校総合文化祭（みやぎ総文 2017） 自然科学部門の講師・審査員	第 41 回全国高等学校総合文化祭			○
	東北エネルギー懇談会参与	東北エネルギー懇談会	○	○	○
依田　清胤	石巻市農政対策審議会委員	石巻市	○	○	○

■経営学部

教員名	委員名	委嘱機関名	27 年度	28 年度	29 年度
石原　慎士	「社会的問題に対応する学校給食の活用事業」推進委員会委員	宮城県教育委員会		○	○
	「社会的問題に対応する学校給食の活用事業」地産地消検討委員会委員	宮城県教育委員会		○	○
	石巻市行政経営戦略会議委員	石巻市	○		
大坂　良宏	石巻市コンプライアンス委員会委員	石巻市	○	○	○
	石巻市都市計画審議会	石巻市	○		
岡野　知子	宮城県土木部指定管理者選定委員会委員	宮城県	○	○	
	石巻市行政経営戦略会議委員	石巻市	○		
佐々木万亀夫	学校評議員	宮城県石巻商業高等学校	○	○	○
	石巻市市民公益活動推進委員会委員	石巻市			○
	石巻市防犯カメラ設置運営審議会	石巻市	○	○	○
庄子　真岐	宮城県行政評価委員会部会委員	宮城県			○
	宮城県農村振興施設検討委員会	宮城県			○
	県立高等学校将来構想審議会委員	宮城県教育委員会			○
	石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員	石巻市			○
	石巻市防災会議委員	石巻市			○
	仙台市音楽ホール検討懇話会委員	仙台市			○
	仙台市広域集客型産業立地促進助成金交付事業選定委員会委員	仙台市			○
杉田　　博	石巻圏ＤＭＯ法人設立準備委員会委員	石巻市		○	
	石巻市北上地区まちづくり委員会	石巻市	○	○	
関口　駿輔	企業団経営審議会委員	石巻地方広域水道企業団	○		
	石巻市市民公益活動推進委員	石巻市			○
	石巻市地域公共交通会議委員	石巻市	○	○	○
	石巻市都市計画審議会委員	石巻市	○	○	○
	石巻市病院運営審議会委員	石巻市		○	○
	石巻市北上地区まちづくり委員会委員	石巻市			○
	石巻市立病院倫理委員会委員	石巻市		○	○
	石巻地方広域水道企業団経営審議会委員	石巻地方広域水道企業団		○	○
竹中　　徹	石巻市環境審議会委員	石巻市		○	○
	石巻市議会議員等非常勤の職員の公務災害補償等認定委員会委員	石巻市			○
	石巻市公務災害補償等認定委員会	石巻市	○	○	○
	石巻市福祉有償運送運営協議会委員	石巻市	○	○	
	被災者自立債権促進ＷＧアドバイザー	㈱ケー・シー・エス東北支社			○
田村　真介	石巻市子どもセンター指定管理者選定委員会	石巻市		○	
	石巻市立釜保育所指定管理者（候補者）選定委員会委員	石巻市		○	
日野　博明	学校評議委員	宮城県東松島高等学校		○	○
	第 41 回全国高等学校総合文化祭（みやぎ総文 2017）弁論部門の講師・審査員	第 41 回全国高等学校総合文化祭			○
益満　　環	登米市行政評価委員	登米市	○	○	○
丸岡　　泰	宮城県慶長使節船ミュージアム企画運営委員会委員	宮城県慶長使節船ミュージアム	○	○	○
	女川町教育委員会委員	女川町教育委員会	○	○	○
	女川町公の施設に係る指定管理選定委員会開催に係る委員	女川町	○		
	石巻圏ＤＭＯ法人設立準備検討委員会委員	石巻市		○	
	石巻市環境審議会委員	石巻市	○		
	石巻市国民健康保険運営協議会委員	石巻市	○	○	○
三森　敏正	情報公開・個人情報保護審査会委員	石巻地方広域水道企業団	○	○	○
	石巻市建築紛争調整委員会委員	石巻市	○	○	○

教員名	委員名	委嘱機関名	27 年度	28 年度	29 年度
三森　敏正	石巻市行政不服審査会委員	石巻市		○	○
	石巻市社会教育委員	石巻市			○
	石巻市情報公開・個人情報保護審査会委員	石巻市	○	○	○
	石巻地区広域行政事務組合情報公開・個人情報保護審査会委員	石巻地区広域行政事務組合	○	○	○
山崎　泰央	社会人基礎力協議会委員	社会人基礎力協議会	○	○	○
	市民公益活動推進委員会委員	石巻市	○	○	○
	登米市ふるさとベンチャー創業支援対策事業計画審査会	登米市	○	○	

■人間学部

教員名	委員名	委嘱機関名	27 年度	28 年度	29 年度
有見　正敏	宮城県学力向上対策協議会委員	宮城県教育委員会	○	○	○
	女川町教育行政評価委員	女川町教育委員会			○
	石巻市食育推進会議委員	石巻市		○	○
	平成 29 年度女川の教育を考える会特別委員	女川町教育委員会			○
	矢本西小学校コミュニティスクール推進委員	東松島市立矢本西小学校			○
大谷　尚文	学校評議員	宮城県石巻高等学校		○	○
	石巻市社会教育委員	石巻市	○	○	○
大場　靖彦	石巻市コンプライアンス委員会委員	石巻市		○	○
木村　民男	「(仮称) 仙台市いじめ対策等検証専門家会議」の委員	仙台市			○
	学校評議員	宮城県石巻好文館高等学校	○	○	○
	宮城県教育振興審議会委員	宮城県教育委員会	○	○	○
	宮城県生徒指導上の諸問題に関する協議会員	宮城県教育委員会		○	
	宮城県不登校対策推進協議委員会	宮城県教育委員会	○	○	○
	警察署協議会委員	宮城県公安委員会	○		○
	石巻市河南室内プール指定管理者選定委員会委員	石巻市		○	
	石巻市子ども・子育て会議委員	石巻市			○
	石巻市子ども・子育て支援事業計画策定委員	石巻市	○	○	
	石巻市指定文化財旧観慶丸商店指定管理者選定委員	石巻市			○
	石巻市震災復興推進会議委員	石巻市	○	○	○
	石巻市北上地区慰霊碑等設置業務プロポーザル選定委員	石巻市			○
	石巻市雄勝地区慰霊碑等設置業務プロポーザル選定委員	石巻市			○
	石巻市立小中学校学区再編成計画検討委員会委員	石巻市		○	○
	石巻市立渡波保育所仮設園舎民間移管先候補者選定委員	石巻市			○
	石巻市立北上小学校移転新築工事設計業務委託プロポーザル選定委員	石巻市			○
	東松島市いじめ問題対策調査委員会委員	東松島市	○	○	○
	夜間中学設置に係る宮城県教委・仙台教委共同調査研究会委員	宮城県教育委員会		○	○
近藤　裕子	石巻市子どもの権利推進委員会委員	石巻市	○	○	○
笹原　英史	全国保育士養成セミナー実行委員会委員	全国保育士養成セミナー・研究大会		○	
佐藤　利明	石巻市地域福祉委員会委員	石巻市	○	○	○
佐藤　正恵	石巻市かもめ学園指定管理者選定委員会	石巻市	○		
	東松島市放課後児童健全育成事業職員	東松島市			○
佐藤　幹男	石巻市立釜保育所指定管理者（候補者）選定委員会委員	石巻市		○	
庄子　真岐	宮城県農村振興施設検討委員会	宮城県	○	○	
	石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員	石巻市	○	○	
	石巻市防災会議委員	石巻市	○	○	
	仙台市広域集客型産業立地促進助成金交付事業選定委員会委員	仙台市	○	○	
新福　悦郎	石巻市いじめ問題対策協議会委員会委員	石巻市教育委員会	○	○	○
	女川町教育委員会委員	女川町教育委員会			○
照井　孫久	石巻市いじめ問題対策調査委員会委員	石巻市	○	○	○
	石巻市行政不服審査会委員	石巻市		○	○
	石巻市小・中学校不登校児童生徒対応協議会委員	石巻市		○	○
	石巻市地域福祉委員会	石巻市			○
西方　守	石巻赤十字病院倫理委員会外部委員	石巻赤十字病院	○	○	○
平川久美子	塩竈市子ども・子育て会議委員	塩竈市	○	○	○
	保育専門技術向上支援事業におけるスーパーバイザー	仙台市	○		
柳　明	全国保育士養成セミナー実行委員会	全国保育士養成セミナー・研究大会		○	
山内　武巳	「いしのまき・スマート・プロジェクト」にかかる「実行委員会」の構成員	宮城県石巻保健所			○
	石巻健康センター指定管理者選定における委員	石巻市	○		
	石巻市スポーツ振興審議会委員	石巻市教育委員会	○		
	石巻市スポーツ推進審議会副会長	石巻市教育委員会		○	○
山崎　省一	全国大学体育連合会員	(社) 全国大学体育連合	○	○	○
	平成 29 年度国民体育大会東北ブロック大会兼第 44 回東北総合体育大会宮城県選手団の本部役員	宮城県教育委員会			○
輪田　直子	学校評議員	石巻市立桜坂高等学校	○	○	○

※職名略。名前 50 音順。

石巻専修大学サクラMAP

キャンパスには、開学時に植えられた樹齢30年以上のソメイヨシノやオオシマザクラを中心に、秋と春に花が咲くジュウガツザクラ、菊咲きのケンロクエンキクザクラ、花びらが黄色のウコンザクラ等、珍しい種類も含めて489本の桜があります。

（※本数は2017（平成29）年11月現在。白花や八重咲きの桜を中心に類似のものが多いため、暫定的に一括りにした上で主たるものの名称を付しており、今後再分類によって変更することもあります。）

オオシマザクラ



オオシマザクラとオオシマ系らしきものを含めて体育館北側～北門～学生寮北側を中心に59本。開花はソメイヨシノよりやや遅く、白花でほのかな香がある。

ヒカンザクラ（カンヒザクラ）



1号館入口や構内の周回路に4本が散在。開花はソメイヨシノより早い。花は釣鐘状で濃いピンク。

ケンロクエンキクザクラ



1号館入口に2本。開花はソメイヨシノより遅く、花は菊咲きで色はピンクで咲き始めは朱色に近い。

ジュウガツザクラ

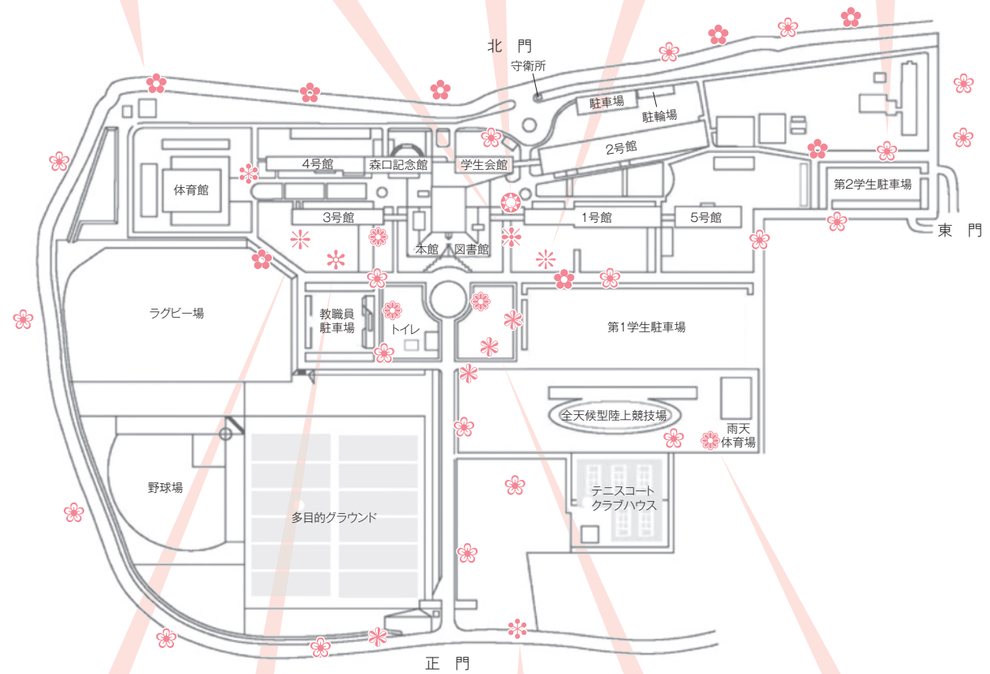


1号館南側芝生に8本。開花は秋と早春の2回。花は小型の薄ピンクで半八重。

ソメイヨシノ



構内の周回路と南門西側外周路沿いのグランドなどに325本が散在。開花は4月上旬で、花は薄ピンク。



コヒガンザクラ



3号館南側芝生に7本。開花はソメイヨシノと同じ～やや早い。花は小型でピンク。

ヤエベニヒカンザクラ



3号館南側芝生に6本。開花はソメイヨシノよりやや遅い。花は小型の半八重でピンク。

ウコンザクラとギョイコウ



正門東側に10本と体育館西側に2本。開花はカンザンとほぼ同じ4月下旬。花は珍しい黄色（後半に赤味）の八重。正門東側では黄色というよりも黄緑色に近いギョイコウも混じっている。

イチヨウ



第1駐車場西側を中心に38本（※類似のものを含む）。開花はソメイヨシノより遅い。八重咲きの代表的品種の1つでピンクの大輪。

カンザン



雨天体育場を中心に、3号館入口等に24本が散在。（※類似のものを含む）。開花は構内のサクラの中で最も遅い4月下旬。八重咲きの代表的品種の1つでイチヨウに比べ色が濃く大輪。